

各区基本計画策定に係る会議資料

行政区	資料内容（抜粋）
北 区	第2回北区民まちづくり会議 (令和2年3月9日)
上京区	第1回上京区まちづくり円卓会議 (令和2年7月28日～8月5日)
左京区	第1回京都市次代の左京まちづくり会議 (令和2年9月18日)
中京区	第2回中京区基本計画推進会議 (令和2年3月4日)
東山区	京都市「東山の未来」区民会議 (令和2年3月2日)
山科区	第1回山科区民まちづくり会議 (令和2年10月2日)
下京区	第1回下京区民まちづくり会議 (令和2年9月14日)
南 区	京都市南区基本計画策定委員会第3回会議 (令和2年3月10日)
右京区	京都市右京区基本計画編集会議 (令和2年2月27日)
西京区	第27回京都市西京まちづくり区民会議 (令和2年3月19日)
伏見区	伏見区基本計画推進区民会議 (令和2年5月18日)

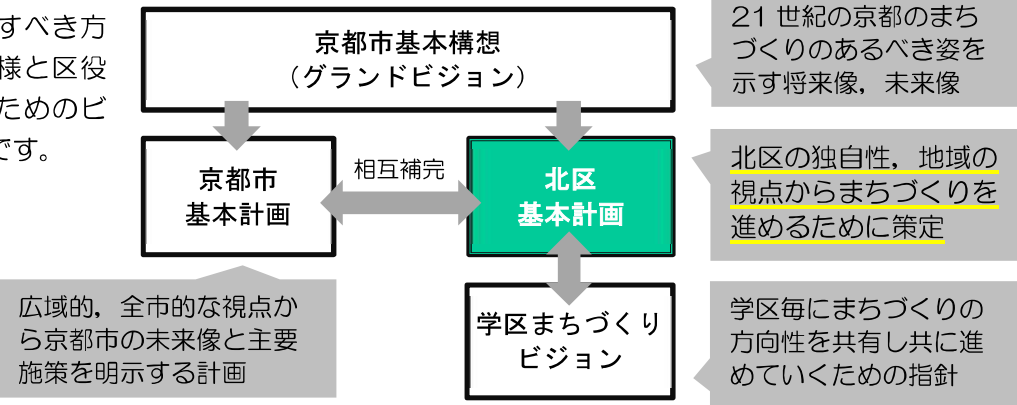
※資料については、上記会議資料又は会議で出た意見を反映したもの

北区基本計画 骨子案

1. はじめに～北区基本計画とは

■計画の位置づけ

北区基本計画は、北区の将来の姿や目指すべき方向性を区民の皆様と区役所とが共有するためのビジョン（指針）です。



広域的、全市的な視点から京都市の未来像と主要施策を明示する計画

21世紀の京都のまちづくりのあるべき姿を示す将来像、未来像

北区の独自性、地域の視点からまちづくりを進めるために策定

学区毎にまちづくりの方向性を共有し共に進めていくための指針

■目標年次

北区基本計画は、令和7（2025）年を目標とした5年間の計画です。

■計画策定の目的

新しい北区基本計画は、SDGs、レジリエンスの理念や過去の経過を踏まえつつ、区民一人ひとりが、“まちとのつながり”があってこそ『豊かな暮らし』が実現できると感じられる、そんなまちの創造を目指して策定します。

【これまでの動き】

平成23年に北区基本計画を策定し、この計画に基づくまちづくりを進めてきました。平成28年には、区民の皆さんが主体的に取り組むための「北区民つながるプログラム」を策定。社会状況の変化に対応した区民力の向上、多様な主体の連携促進を目指して、“つながる・つなげる”をキーワードにまちづくりを展開してきました。その結果、①オール北区によるまちづくりの進展、②まちづくりに参画する区民の増加、③区内4大学との連携強化、④学区内各種団体間の連携強化等を生み出しています。

2. 北区はこんなまち

■自然環境が豊か～区面積の80%以上が森林～

- 北山の山並み、北山杉の美林景観
- 賀茂川の水辺環境、森林浴も楽しめる船岡山
- 深泥池生物群集等の天然記念物 等



■大学のまち ～区民の3,4人に1人は学生～

- 大学生数4.0万人（H30年度）
※ 北区にキャンパスがある4大学の学部等に在籍する大学生、院生、聴講生等の人数
- 区内4大学と北区役所の間で包括連携協定や健康長寿、はぐくみ分野での協定を締結。大学、行政機関、地域の連携が進展



■子育て ～一層子育てしやすいまちへ～

- 出生数が減少傾向の中、関係機関が連携し、子どもの世代毎に地域と親が交流する場を設定（「つながるフェスタ」等）
- 子育てサロン等、地域による居場所づくりも進展
- 保育園、児童館、小学校等の教育・福祉施設が多数点在



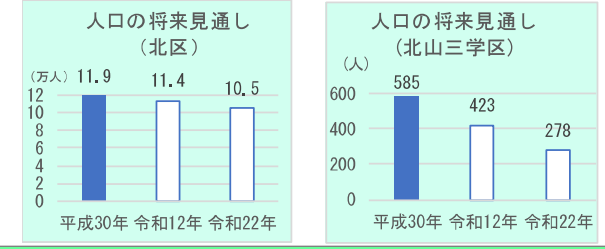
■多様な産業～伝統産業・農林業から商店街まで～

- 西陣織等の伝統産業、北山林業を取り巻く厳しい経営環境
- 区面積の約3%が農地で、すぐき等の京野菜の生産が盛ん。
- 空き店舗の増加等、商店街（9箇所）を取り巻く厳しい経営環境。一方、空き家や空き地の有効活用等の新たな展開も。
- 地域企業のまちづくりに参画する機運が向上
※京都中小企業家同友会北支部会員数：52社



■人口 ～歯止めがかからない人口減少傾向～

- 少子化による人口減少傾向が今後も継続見込み
- とりわけ、北山三学区は一層減少の見込み



■防災 ～進む、万が一への備え～

- 自然災害が多発する中、とりわけ北部山間地域、賀茂川周辺エリア、密集市街地での備えが重要に。
- 障害のある方等、災害弱者への防災対策など、福祉面での地域連携が進みつつある。



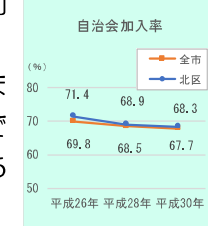
■お年寄り～いつまでも生き生きと暮らすために～

- 高齢化率が市内3番目（R1年度 29.1%）
- 北区オリジナル健康体操「Happy★キタエちゃん体操」や「インターバル速歩」の普及啓発等、区民ぐるみの健康づくりを推進



■地域コミュニティ～自治会加入率70%割れ～

- 自治会等推計加入率が減少傾向（H30年度 68.3%）
- 地域まちづくりの指針「学区まちづくりビジョン」の全学区での策定を推進。自分ごとのまちづくりを支援



■障害のある方～誰もが一層暮らしやすいまちへ～

- 京都ライトハウスや京都盲啞院を前身とする府立盲学校が立地
- フナオカスタンダード等を通じて、障害者福祉事業所と学区との連携が見られる。



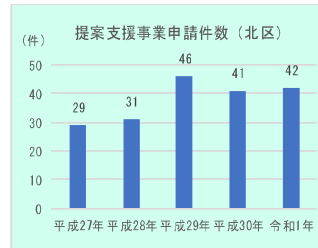
■歴史・文化を感じるまち～世界遺産が2つも～

- 世界遺産はじめ多くの神社仏閣や文化財が点在
- 五山の送り火等の伝統行事、能、狂言等の伝統芸能、茶道、華道等の伝統文化が身近な地域。年中行事等の生活文化も息づく。
- 埋もれた歴史、文化に注目した取組を展開中（船岡山等）



■まちづくり活動 ～多様な活動が展開中～

- 効果的なカフェ事業の展開等により、自主的なまちづくり活動を発掘、支援
- 近年、まちづくり提案支援事業への申請件数が増加。任意団体や個人の熱意と取組が、地域の自治活動と連携する事例も。
H27年度 29件 → R1年度 42件



北区基本計画 骨子案

3. まちづくりの方向性

『まちとのつながりで、あなたの暮らしを豊かにしたい』(仮)
 “豊かな自然の恵みと伝統ある文化の中で、人々がお互いに支え合い、活力を持って生き生きと暮らすまち”を実現するために

誰一人
 “孤立”させない!

まちづくりの
 かんがえかた



家族とのつながり。友達や職場など時間を共にしたつながり。趣味やスポーツなど楽しみを通じたつながり。リアルでもバーチャルでも、私たちの周りには色々な人とのつながりがあります。
 それらに加えて、同じように天気が変わり、道ですれ違うような距離感で空間を共有する、緩やかなつながりの1つとして“まち(地域)”があります。隣近所のお付き合いから、町内や学区(小学校の通学区区域)の行事、商店街での買い物や北区でのイベントなど、日々の暮らしに、色々なかたちでのまちとのつながりがあります。



働き方(共働き、フレックスタイム、在宅勤務…)や家族の形態(核家族化、単身や独居…)など、暮らしが急速に変化しています。WEBやSNS、スマホ利用が日常的になり、日々受け取る情報も複雑化し、一人ひとりの価値観もこれまで以上に様々です。こうした変化の中で、私たちの生活は便利になりました。
 一方、便利になったことで、これまで当たり前とされていた人とのつながりやまちとの関係が希薄化し、“孤立”などによる様々な不安も生まれています。



困ったことがあっても、誰かに相談することなく情報やサービスで解消することが多くなってきました。そうした便利から得ることができる安心があります。また、子どもの見守りや介護の相談、地域防災、趣味やスポーツの仲間など、つながりによって得ることができる安心もあります。そうした安心が、私たちの暮らしを豊かにしてくれます。
 私たちは生まれてから最後の日まで、成長の段階に応じて喜びも不安も移ろいます。そんなライフステージに応じて安心を育む“これからのまちとのつながり”を再創造(re:make)していきます。

子どもから高齢者まで多様な人々の暮らしがあることを示しています。



まちづくりのすすめかた

一人ひとりの暮らしに寄り添いながら“北区が目指すまちの姿”を実現するために、区民の現状に共感し、“つながり”を通じてまちにできることを7つのライフステージと3つの切り口(以下「ライフステージ等」とします。)で整理しました。ライフステージ等は右記の10区分としますが、まちには、あなたも含めた子どもから高齢者まで多様な人々の暮らしがあり、世代や考え方も違えば、楽しいことも困りごととも異なります。そうした、一人ひとりへ共感すること(人のことを思いやる自発的な態度)を大事に、誰もが必要とときに、まちとのつながりが持てる環境を整えるため、地域や団体、各機関が連帯してまちづくりを推進していきます。

“つながり”を通じてまちにできることを、ライフステージ等10区分できめ細かく整理するという考え方を説明しています。

ライフステージ等

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 子ども | 2. 大学生 |
| 3. 若者 | 4. 子育て世代 |
| 5. 働き世代 | 6. 前期高齢者 |
| 7. 後期高齢者 | 8. 北山に暮らす人 |
| 9. 障害のある人 | 10. 外国から来た人 |

10区分(7つのライフステージと3つの切り口)を示しています。

4. リーディングプロジェクト

北区基本計画の実施に当たり、先導的な役割を果たすプロジェクトを記載【検討中】

区民の皆様と共に具体的なプロジェクトを検討していきます。

5. ライフステージ等ごとのシート

10区分ごとにまちとのつながり方を記載【検討中】

次ページ以降に「学生」及び「働き世代」の2件のシートを例示しています。

6. 評価指標

計画の進捗状況や効果を把握するために設定する指標を記載【検討中】

7. 計画の推進体制

計画の進行に当たり、関係者の調整を図りながら効果的に推進する役割を担う体制について記載【検討中】

昨年度まちづくり会議に関わっていただいた若手の方々や、これまで関わりが薄かった企業等とも協働して進めていきます。

参考資料

まちづくり会議メンバーの名簿や計画策定の経過を記載【検討中】

5.ライフステージ等ごとのシート
(10区分のうちの“大学生”及び“働き世代”のシートを例示しています。)

誰一人

“孤立”させない!

大学生
18~22歳

“せっかく北区に住んでるのに、北区らしさ経験してる?”

4つの大学に在籍する約4万人の大学生。将来への期待と不安を抱く中、北区に来て良かったと思えるような出会いや経験を、これから“まち”がつくっていきます!

つながりが生まれると

- ・ 色々な世代や分野の人との交流が生まれ、自分の将来が描けるかも
- ・ 大学での学びをまちで実践する機会が生まれ、身近な社会課題の解決につながるかも
- ・ 災害時の不安が解消し、安心して過ごせるかも

大学生にとっての利点を示しています。



大学生とまちの

これからのツナガリ



まちにとっての利点を示しています。

- ・ 地蔵盆や夏祭りなど、地域の取組に大学生のアイデアや行動を活かせるかも
- ・ 高齢者サロンや子どもの居場所など、地域福祉活動が充実するかも
- ・ 災害時に、若い力が活躍するかも

まちとのつながりかた

昨年度まちづくり会議で区民の皆様から頂いた1,000件以上のご意見から生まれたアイデアを示しています。

既に区民の皆様と共に進めている取組を紹介しています。

1. 多様な生き方に触れ、将来への可能性が広がる!

学業が忙しく、大学と家とアルバイトの往来で、まちとの接点はない。回覧板に触れることがなく、地域行事や伝統行事の情報もない。そんな大学生が、学び経験したくなるような、まちでの出会いや交流の仕掛けとは?

まちにできること

1. 生き方や暮らし方、働き方も含めて、まちで気軽な相談や体験ができる機会をつくります
☛ 取組アイデア:『多世代の交流会や文化体験会等の開催』
2. 地蔵盆や夏祭り、学園祭などのイベントを、大学生と地域が互いに知り、また気軽に参加できる仕組みを検討します
☛ 取組アイデア:『大学生に伝わる広報板の有効活用』
3. 避難方法の周知や防災訓練など、学生のアイデアやネットワークを活かした地域防災に取り組みます

2. 大学での学びを、まちで実践・発表できる!

子どもや高齢者、防災に関する取組などで、いくつか生まれているゼミ・サークルとまちとの連携。こうした連携が当たり前になるような、大学とまちが互いに知り合える仕組みとは?

まちにできること

1. 学生、大学、地域、企業、区役所等の多様な主体が、互いの課題や資源を交換できる場づくりを進めます
☛ 取組アイデア:『まちづくりプラットフォーム(仮)の構築』
2. 回覧板からラジオやSNSまで、多様なメディアを活用した、大学とまちの情報交換を図ります
☛ 取組アイデア:『まちづくりプラットフォーム(仮)の構築』
3. 4つの大学が楽しく交流することを目指した、地域や企業も参加するイベントを検討します
☛ 取組アイデア:『北区大学フェス(仮)の実施』

3. 『お役立ち情報』 いまでも、色々な取組や制度があります!

1 北区つながるワークショップ



「あなたの遊び心が、まちを楽しくするー」といったテーマを掲げ、まちづくりに関心のある人が集う交流の場。学生の参加も多く、妄想やアイデアが膨らみます。対話を重ねる中で、新たなまちづくり活動に繋がっている事例も!

2 北区「WA(わ)のこころ」創生事業



北区ゆかりの文化人、大学、区役所が、北区に息づくほんまものの文化を肌で感じられるイベントを開催(年1回)しています。京都に通う大学時代の、大切な1ページになること間違いなし!

■取組事例 『and house』中川区の情報発信プロジェクト

過疎化が進む北山丸太の故郷“中川”を盛り上げようと、大谷大学志藤ゼミの学生さんが、NPO法人「HEROES」の協力を得て、オリジナルビール「京都・中川まんまビーア!」を開発(北区役所は経費を支援)。

中川で代々育てられ、山仕事の合間に親しまれていた「古来のまんま」のお茶(まんま茶)の葉の香りも抜群。収益の一部は、地域活動に活かされます。



働き世代
40~59歳

“せっかく北区に住んでるのに、北区のまちに関わっている？”

社会での経験を積み重ね様々なスキルや趣味、特技などを持つ働き世代。健康や老後の暮らしも気になり出す中で、北区に暮らしてよかったと思えるつながりを、これから“まち”がつくっていきます。

誰一人
“孤立”させない！

つながりが生まれると

- まちの魅力を発見できたり、新たな人との交流や出会いがあるかも
- 仕事や趣味、家事のスキルや経験が活きる、新たな活躍の場が見つかるかも



働き世代

働き世代にとっての利点を示しています。

働き世代とまちの これからのツナガリ



まち

まちにとっての利点を示しています。

- まちづくりの仲間が増えるかも
- 働き世代の多様なスキルや経験が活かせて、まちがもっと元気になるかも

まちとのつながりかた

昨年度まちづくり会議で区民の皆様から頂いた1,000件以上のご意見から生まれたアイデアを示しています。

既に区民の皆様と共に進めている取組を紹介しています。

1. まちにある機会や資源を活かして、いつまでも楽しく健康に暮らせる！

仕事や家庭に忙しく過ごす日々。そんな働き世代がこれからも楽しく健康であり続けるために、まちでの学びや交流を育む仕掛けとは？

まちにできること

1. 講座やイベントにおいて、参加しやすい日時、健康や料理、スポーツなど興味湧くテーマ設定など、働き世代に応じたプログラムづくりを図ります
2. SNSや各種メディアを活用し、文化やまちづくりなどに関する情報を分かりやすく発信します
取組アイデア：『文化・まちづくり情報を発信する「大人の土曜塾」(仮)の検討』

2. 仕事や趣味、家事などの、スキルや経験がまちに活きる！

これまでに培われてきた多様な経験やスキル。気軽に参加や協力できて、経験も活かせるような、まちづくりや社会貢献の仕組みとは？

まちにできること

1. 趣味や特技を活かし、楽しみながら地域課題解決を図るような、気軽に参加できるまちづくり活動を推進します
取組アイデア：『交流や学びの機会づくり、相談対応や補助制度等のサポート体制を整備』
2. 社業を通じて地域と共に発展することを理念に掲げる「地域企業」と、まちづくりにおけるさらなる連携を図ります
取組アイデア：『学区-企業間の情報共有、企業の地域行事への協力等』

3. 『お役立ち情報』 いまでも、色々な取組や制度があります！

■ 北区魅力再発見事業

学区に暮らす住民がルートを開発し魅力を発信する、手づくりのウォーキングツアーです。自分が暮らすまちの見所や歴史を改めて発見する機会になり、普段は見られない魅力に触れると参加者からも大好評！毎年1つの学区を取り上げ、これまで6つの学区(R元年度末)で実施してきました。ぜひ、ご参加を！

■ 取組事例 『紫竹SPAT』紫竹プラスアクションチーム

自治会活動の活性化を目指す30~40歳の若手有志の会(R元年発足)。自分達も楽しみながら、自治連合会設立10周年記念イベントはじめ各種行事の企画、実践中！



■ 取組事例 『パトラン』パトロール・ランニング

赤色のTシャツが目目を惹くランニングのグループ。走ることに合わせて地域の見守りも！と安心安全に取り組まれています。全国で展開され、令和元年夏頃には、区内初のグループが大將軍学区で発足。楽しみながら、ユルくまちに貢献できる好事例ですね。



1 策定方針

- (1) 計画期間 令和3年度～7年（2021年度～2025年）
- (2) 策定の視座
 - 2次にわたる計画の成果を踏まえつつ、レジリエンス、SDGsを中心に据え、「西陣地域を中心とした地域活性化ビジョン」や「各学区社協の運営方針」等も考慮に入れながら、人口減少への歯止め、少子化対策等に真正面から取り組む。
 - 厳しい財政状況にあっても、真に必要な事業の選択と集中・融合、効率化及び地域に貢献し調和のとれた産業・観光、商店街の振興やふるさと納税等の収入確保など、稼ぐ力の向上に取り組む。
 - （なお、今後新型コロナウイルスに対する取組によって得られる体験、知見に基づき、計画全般について、より創造的なパラダイム転換を模索する。）
- (3) 策定の進め方
 - 次期計画を「自分ごと、みんなごと」として捉え、実践していただけるように、計画推進会議をはじめ、若者や多様な立場の区民が広く参加する「上京! MOW」等を活用し、様々な意見を取り入れる。
 - 新型コロナウイルス感染防止対策として、また、若手層等の参加を促進するため、ICTを活用したワークショップ等を実施する。

2 検討体制



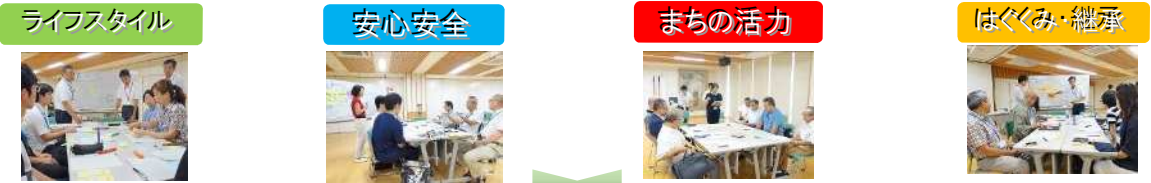
3 これまでの策定経過

【令和元年度】

- 「基本計画推進会議」（6月28日）及び「学識者ミーティング」（7月9日）で策定方針や計画大枠を確認
- 「円卓会議」を3回、「上京! MOW」を1回開催し、4つのテーマごとにワークショップを実施
- 17学区ごとのワークショップをはじめ、小・中学校、中小企業家同友会など、若年層や多様な団体等からの意見を広く聴取

第1回 上京区まちづくり円卓会議 拡大会議「上京! MOW」 令和元年8月9日～9月4日

4つの重点テーマ毎に分かれて、各部会の視点から検討課題を抽出しました。



第2回 上京区まちづくり円卓会議 令和元年11月11日

4つの部会に分かれ、第1回会議で出た課題に対して、考え得る「取組み方策」とそこに関われば良いと考える人、団体のアイデアを出し合いました。

新川議長の総括「楽しい上京が未来の上京をつくる！」



17学区ごとにワークショップ

区社協と連携し、区内17学区ごとに地域の課題解決に向けたWSを開催し、各学区に特有な様々なご意見をいただきました。（令和元年10月～令和2年2月）



上京区民(共同住宅対象)アンケート調査

共同住宅12棟を対象に安心安全と計画策定に向けたアンケートを実施しました。有効回答数：404件（令和元年11月）



ふれあいトーク「上京中学校」

上京中2年生160名と地域の方90名が参加し、未来を担う中学生の思いや考えを聞き、活発に意見交換を行いました。（令和2年1月22日）



仁和小学校きらめき学習インタビュー

仁和小6年生児童からのインタビューを通じて、上京のまちづくりや将来像等について共に考えました。（令和2年2月19日）



京都中小企業家同友会上京支部との意見交換

地域で活躍されている皆様の視点から、計画に足りないもの、取り組むべきものについて意見交換を行いました。（令和2年2月6日）



安心安全絆工房

約80名が参加し、防犯・防災・環境整備、交通安全の視点から、活発な意見交換を行いました。（令和2年2月17日）



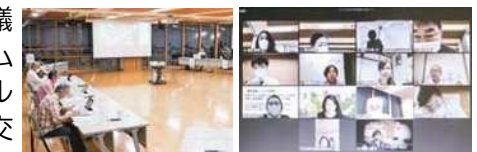
第3回 上京区まちづくり円卓会議 書面開催により意見聴取を実施（令和2年3月）

【令和2年度】

- ICTを活用した「円卓会議」を開催し、計画骨子（案）に基づいて議論
- 市民しんぶん区版等によって区民意見を随時募集
- 今後、「上京! MOW」を開催（10月27日予定）し、パブリックコメントを経て、上京区民会議を開催し、来年夏頃の計画策定を目指します。

第1回 上京区まちづくり円卓会議 令和2年7月28日～8月5日にかけて4部会を開催

これまでのご意見等を踏まえて作成した資料をもとに、円卓会議を4部会ごとに、新型コロナ対策のため、オンライン会議システム（Zoom）を活用して開催しました。会議では、新型コロナウイルスによる日常生活、地域、価値観等の変化を踏まえた活発な意見交換が行われました。



【まちづくりの将来像】(仮) 文化と絆で輝く未来!

- 上京区の強みである自治、福祉、防災の三位一体で取り組む「地域力」と、歴史文化の厚み、奥行き、先人からの知恵を継承した「文化力」を土台(横串)として、「ライフスタイル」、「安心安全」、「まちの活力」、「はぐくみ・継承」の4つのテーマを柱(縦串)に据え、取組方針と取組・取組例を掲げる。
- テーマごとに「上京らしさ」、「モデル性」、「先進性」等のあるリーディングプロジェクトを1~2件設定する。
- 加えて17学区ごとの重点目標を掲載(今後これに基づき学区ごとのビジョンを順次策定)

【4つのテーマ・方針・取組】

<p>テーマ 1 (ライフスタイル) ライフスタイルを継承・発展させるまち</p>	<p>テーマ 2 (安心安全) 快適に安心して安全に暮らせるまち</p>	<p>テーマ 3 (まちの活力) 地域と調和し、賑わいが生まれるまち</p>	<p>テーマ 4 (はぐくみ・継承) 人が育ち、ともに支え合うまち</p>
<p>方針1 <u>地域力の維持・向上に向けた取組の推進</u> ◆学区単位の自治・福祉・防災活動の継承・発展 ◆町内会・自治会の活性化 ◆「上京ならではの暮らし方」の継承・発展</p>	<p>方針1 <u>「共助」「近助」を根幹とした「自助」「公助」との連携</u> ◆家庭で取り組む災害対策 ◆地域で取り組む災害対策 ◆行政が取り組む災害対策</p>	<p>方針1 <u>地域住民の暮らしを担う身近な場の活性化</u> ◆地域に根ざした商店街等の活性化 ◆人が交流する場の創出</p>	<p>方針1 <u>多様な人が活躍できるまち</u> ◆子ども、学生、高齢者、障害者、外国人等、多様な人々と取り組む地域活動の活性化 ◆地域活動の活性化</p>
<p>方針2 <u>文化と伝統を大切にするまちづくり</u> ◆「上京ならではの文化」を活かしたまちづくり ◆文化庁と連携した文化を基軸としたまちづくり</p>	<p>方針2 <u>安心安全なまちづくり</u> ◆歩行者が安心して歩くことができる環境整備 ◆自転車等の防犯対策 ◆地域と共存した民泊運営の推進</p>	<p>方針2 <u>地域産業や地域企業と連携した活力あるまちづくり</u> ◆西陣をはじめとする地域ならではの産業の魅力発信 ◆地域企業の活性化に向けた取組</p>	<p>方針2 <u>地域で子どもを育むまちづくり</u> ◆子どもを守るまちづくり ◆一人親家庭等へのケアができるまちづくり</p>
<p>方針3 <u>地球環境にやさしいまちづくりの推進</u> ◆自然を守るまちづくり ◆エコにつながる生活の実践</p>	<p>方針3 <u>空き家対策等の推進</u> ◆地域の安心安全に責任を持つ住宅管理 ◆空き家把握や所有者に寄り添う相談体制の構築 ◆快適な住環境の確保(ごみ屋敷対策等)</p>	<p>方針3 <u>ヒト・コト・モノをつなぐまちづくり</u> ◆交流を通じたまちづくり ◆大学生と連携したまちづくり</p>	<p>方針3 <u>高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり</u> ◆高齢者の社会進出を支援する取組 ◆高齢者を守るまちづくり ◆高齢者を見守る支え手への支援</p>
<p>リーディングプロジェクト(例) 文化庁全面移転記念「京都御苑でお茶会」 文化庁の全面的移転(令和4年度中予定)に合わせて、上京区140周年記念事業で実施された「京都御苑で上京大茶会」を更に充実、発展させ、上京の歴史・文化力を広く発信する取組として実施する。 </p>	<p>リーディングプロジェクト(例) 空き家を活用した公共空間づくり事業 高齢単身世帯の増加等が進む上京区では、7軒に1軒が空き家となっており、今後も増加が見込まれている。地域や空き家の所有者が活用事例等を学びながら、空き家の流通促進を図る取組を実施する。 </p>	<p>リーディングプロジェクト(例) 地域に根差したまち歩き・食べ歩きツアー事業 「食」「銭湯」「移住」「町家居住」等といった目的やターゲットを絞ったまち歩きを実施し、趣味や興味でつながる小さなコミュニティを数多く生み出し、賑わいのあるまちづくりを推進する。 </p>	<p>リーディングプロジェクト(例) 府市(区)協調で上京ソリデール 上京区では、高齢化の進行に伴い、男女ともに高齢単身世帯数が増加しており、京都府で取り組まれているソリデール事業(大学生の下宿マッチング)をさらに促進するため、地域事情に精通している地域や区役所が、京都府と連携し、事業の更なる推進を図る。 </p>

【全体イメージ】



■これまでの取組と計画の方向性

第1期における取組状況 (2001～2010年)

歴史

- ・伝統行事を収録した観光振興用DVDの作成
- ・伝統行事の保存会等のネットワークづくり
- ・「知られざる歴史的文化遺産の再発掘とまちづくり資源としての整備」をテーマにしたシンポジウムや講演会の開催



文化

- ・煎茶会, いけ花教室, 文化フェスティバル, 作品展を開催
- ・区民による身近な文化の更なる創造



学問

- ・大学と地域の相互交流促進事業を活用した, 大学と地域の協働による魅力あるまちづくり
- ・大学等の研究者による区民講座を開催



区民あふれる出会いのまち

- ・左京区民ふれあいまつりをはじめとする区民ふれあい事業
- ・人権啓発事業
- ・心ときめき芸術祭の実施
- ・誰もが互いの人権を尊重するまちづくり
- ・新左京区総合庁舎の整備



第2期における取組状況 (2011～2020年)

* 第1期から継続する取組は記載を省略

目標1 美しい自然のまちづくり

- ・チマキザサ再生プロジェクトの推進
- ・「農」を活かした北部山間地域魅力創造プロジェクトの推進
- ・北部山間各地域における夏・秋祭りの実施
- ・学生向け自転車啓発「今出川通作戦」の実施等, 自転車の安全利用の啓発
- ・二ノ瀬トンネルの完成・開通
- ・各地域における防災訓練の実施や避難行動マニュアルの作成



目標2 歴史・文化・学問のまちづくり

- ・左京・地域ゆかりの文化発信・継承プロジェクトの推進
- ・「左京・食と伝統の文化フェスタ」の開催
- ・岡崎地域活性化推進事業の実施
- ・京都市動物園, 京都会館, 京都市美術館, 京都府資料館のリニューアル
- ・「左京×学生縁ねっと」の実施
- ・京都府立大学との共同研究による伝統文化の保存・継承のための調査の実施
- ・京都精華大学との包括連携協定の締結



目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

- ・「左京 ほっこりベビーフェスタ」等, 0歳児とその親を対象とした相談事業や交流の場づくり
- ・「左京・からだの学校」による高齢者の健康づくりと仲間づくり
- ・認知症の方やその家族を対象とした居場所づくり
- ・区役所での授産施設の自主製品の販売コーナーの設置
- ・4箇国語による左京区防犯・防火ハンドブックの作成や地域の見守り活動への支援
- ・「みんなでつくる左京朝カフェ」の開催
- ・「左京まちづくり交流会」の開催
- ・まちづくり活動支援交付事業の実施



計画の方向性

<第2期> 2011~2020

左京はあとふるプラン

<計画の目指すところ>
自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ
「豊かなところ」を大切に伝えます

- 目標1 美しい自然のまちづくり
- 目標2 歴史・文化・学問のまちづくり
- 目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

地域別の目標

15の取組分野

各分野において取組を推進

○今後の課題

<これまでからの課題>

- <新たな課題> (社会情勢の変化等)
- ・SDGs達成への取組
 - ・社会的孤立の顕在化
 - ・人口減少、少子化、高齢化による担い手不足
 - ・価値観・ニーズの多様化
 - ・外国にルーツを持つ住民の増加 等
 - ・新型コロナウイルス等感染症や自然災害の脅威

<第3期> 2021~2025

左京区基本計画 (第3期)

<計画の目指すところ>
左京の自然や文化を大切に、誰一人取り残さない
まちづくりを進めます

- 目標1 美しい自然のまちづくり
- 目標2 歴史・文化・学問のまちづくり
- 目標3 ひとにやさしいぬくもりのまちづくり

地域別の目標

12の取組分野

まちづくりの基本姿勢・要素

「誰一人取り残さない」
SDGsの理念を踏まえたまちづくりの推進

- ① つながり
住民同士や地域間、各団体間、事業者間等における「交流・つながり」の促進
- ② 協働
区民・事業者や様々な団体・機関による参加・連携・協働によるまちづくりの推進
- ③ 共生
多様性を互いに尊重しながら共に生きるまちの推進
- ④ なりわい
産業振興・しごと創造による地域活性化、生活基盤の安定と定住化の促進、地域内経済循環の促進
- ⑤ 左京愛
「左京ファン」の拡大とまちの「担い手・支え手」となる人材の育成

各分野において取組を推進

各分野横断的に取組を推進

《区誕生100周年、さらにその先の未来に向けて》
持続的に発展するまちづくりのサイクルを確立

推進体制の充実

★「目標1~3」を継承

★「取組分野」を整理・修正
(新たな課題、社会情勢等を踏まえて)

各分野 個別的課題

横断的課題

★「まちづくりの基本姿勢・要素」を新たに設定
(新たな課題、社会情勢等を踏まえて)

■計画推進にあたっての「まちづくりの基本姿勢・要素」

左京区基本計画（第3期）においては、計画の推進に当たり、前計画期間中に顕在化した新たな課題や社会情勢の変化（SDGs達成への取組、社会的孤立の顕在化、人口減少・少子化、高齢化による担い手不足、価値観・ニーズの多様化、外国にルーツを持つ住民の増加、新型コロナウイルス等感染症や自然災害の脅威等）を踏まえて、新たに、必要となる基本的な姿勢や、促進すべきまちづくりの基盤的要素（「まちづくりの基本姿勢・要素」）を以下のとおり設定します。

- 国連において掲げられた国際目標であるSDGsの「誰一人取り残さない」の理念を踏まえながら持続可能なまちづくりを推進することを最上位の基本姿勢とします。
- SDGsの理念を踏まえ、IT化のより積極的な普及促進、働き方改革などこれまで達成できていなかった社会課題の解決を加速し、ウィズコロナ時代における新しい生活スタイルに対応した持続可能でより安心安全のまちづくりを構築する。
- そのうえで、これまで同様、各分野における個別的課題に即して取組を進めるとともに、（それだけでは解決できない）複数分野にわたる横断的・根底的な課題に対応して、取組の実施に当たって必要となる共通の基本姿勢や、課題解決を横断的に促進する基盤的要素として、「つながり」・「協働」・「共生」・「なりわい」・「左京愛」を位置付け、総合的に左京区のまちづくりを推進します。

①つながり

住民同士や地域間、各団体間、事業者間等における「交流・つながり」の促進

（*第2期取組分野15「交流」を拡大して位置付け）

住民同士や「地域間」、「世代間」、「各団体間」、「事業者間」、「これまで住んでいた住民と転居してきた住民」、「移住外国人・留学生と区民」、「観光客と区民」、「大学と地域」など様々な主体が、互いの情報を共有しながら交流とつながりを促進する。

<取組の具体例>

- ・左京区民ふれあいまつり
- ・みんなでつくる左京朝カフェ事業
- ・オール左京まちづくり交流会
- ・SNSやオンラインのICTツールの活用

⑤左京愛

「左京ファン」の拡大とまちの「担い手・支え手」となる人材の育成

左京区の魅力（訪ねる魅力・住む魅力・働く魅力等）を区内外へ発信し、広げていくことにより、国籍に関わらず区民のまちへの愛着・誇りを醸成するとともに、「左京ファン」を増やして観光、移住や定住を促進させ、各地域の行事・取組の後継者や、まちづくりの「担い手・支え手」を育成していく。

<取組の具体例>

- ・左京区広報PRキャラクター
- ・「左京×学生 縁ねっと」事業

「誰一人取り残さない」SDGsの理念を踏まえたまちづくりの推進

国連において、気候変動や自然災害、生物多様性等、国内外の課題の解決に向けて掲げられたSDGs（持続可能な開発目標）の「誰一人取り残さない」の理念や方向性、真のIT社会の実現、ウィズコロナ時代における新しい生活スタイル等を踏まえながら、左京に暮らし、働き、学び、左京を愛するすべての人が、生涯を通じて生き生きと活躍できる、持続可能な安心安全の左京のまちづくりを推進する。

②協働

区民・事業者や様々な団体・機関による連携・参加・協働によるまちづくりの推進

（*第2期取組分野14「市民参加」を拡大して位置付け）

区民、地域団体、事業者、大学、NPO・活動団体、行政等が連携・参加・協働し、各主体の「強み」を生かして、社会課題の解決や左京の魅力発信等を行うまちづくりを推進する。

<取組の具体例>

- ・左京区まちづくり活動支援交付事業
- ・みんなごとのまちづくり推進事業
- ・世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動

③共生

多様性を互いに尊重しながら共に生きるまちの推進

（*第2期取組分野15「共生」を拡大して位置付け）

多様な地域を有し、多くの学生や外国にルーツを持つ住民、性的少数者等、様々な文化や価値観を持った人々が暮らす左京区において、互いの文化や考え方等の違いを認め合い、尊重し合いながら、助け合い、支え合うまちづくりを進める。

<取組の具体例>

- ・心のふれあいみんなの広場
- ・心ときめき芸術祭

④なりわい

産業振興・しごと創造による地域活性化、生活基盤の安定と定住化の促進、地域内経済循環の促進

左京区内の地域に根差した事業者（地域企業等）・職人が地域資源を活かしながら活躍して産業が振興し、新たな仕事が生み出されることにより、地域が活性化し、区民の生活基盤が安定して、だれもがいつまでも安心して住み続けられるまちづくりを推進する。

<取組の具体例>

- ・企業と連携した（ビジネス的手法による）地域活性化

■計画の目指すところと計画の概要

令和2年初から全世界各地で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の拡大により、我が国においても、社会経済生活に多大な影響が及び、社会システムの変革を余儀なくされた。特に、特別措置法に基づく緊急事態宣言（令和2年4月中旬～5月下旬）が全都道府県へ拡大されたことで、不要不急の外出の自粛が求められたほか、各地で行事がほとんど中止となり、文化、観光、産業などが大打撃を受けた（この年、京都四大行事について、三大祭の行列が中止、五山の送り火は縮小して実施）。また、学生生活や地域コミュニティの維持・活性化にも相当な影響が及んだ。

以上のような、新型コロナウイルス感染症の拡大が社会へもたらした影響の大きさを踏まえ、左京区基本計画（第3期）では、同様の脅威が起きたときを想定し、ウィズコロナ時代に適応した3密対策や手洗い・消毒、マスク着用などを示した新しい生活スタイルの浸透、地域活動のあり方の検討、行政手続き等の更なるICT化の推進などに取り組み、持続可能な安心安全のまちづくりを目指す。

目指すところ

左京の自然や文化を大切にし、誰一人取り残さないまちづくりを進めます

[目標1]
美しい自然のまちづくり
緑あふれる美しい自然を守り育て、自然と調和するまちづくりを進めます。

<5年後のすがた>
美しい自然環境を活用し、持続可能な生活を実現している

[目標2]
歴史・文化・学問のまちづくり
豊かな歴史と多彩な文化、多くの大学が集まる学問の魅力を更に高めるまちづくりを進めます。

<5年後のすがた>
伝統を活かしつつ、新しい魅力を創造している

[目標3]
ひとにやさしいぬくもりのまちづくり
全てのひとが支え合いながら、住み慣れた地域で暮らしていくことができる地域共生社会を実現するまちづくりを進めます。

<5年後のすがた>
誰もが人とつながりや生きがい、役割を持ち、社会的に孤立することなく、いきいきと安心して過ごすことができる

	①区民の取組	②協働の取組	③行政の取組
1 自然環境	『自然を愛でるころ』を大切にしましょう。	自然を育み、活かして、次代に継承しましょう。	広域的・長期的視点で自然を生かした取組を進めます。
2 まちの美化・景観	美しいまちを目指しましょう。	地域での一斉清掃などの取組を行いましょう。	環境保全に関する啓発を強化し、景観に配慮した整備を進めます。
3 自然と調和した都市基盤整備	自然資源を暮らしの中で使いましょう。	まちの緑や景観を守りましょう。	自然に配慮した都市基盤整備を進めます。
4 防災・消防	自然災害等に対する防災意識を高めましょう。	長期的な視点で力を合わせて防災に取り組みましょう。	災害に強いまちづくりを進めます。
5 歴史資源・文化財・伝統行事	左京区の歴史や文化を学び、伝統行事を守り伝えましょう。	小学校等との連携により、歴史や文化を学ぶ仕組みをつくりましょう。	文化財・伝統行事の保全・継承や活用を進めます。
6 観光	観光客に左京区の文化を伝えましょう。	自然を生かした観光の仕組みづくりを進めましょう。	地域の魅力を生かした観光を支援します。
7 文化・芸術	文化・芸術を楽しみましょう。	文化・芸術の創造と発信に取り組みしましょう。	文化・芸術を身近に感じられる環境づくりと、文化・芸術の活用に取り組みます。
8 大学のまち・学びのまち	地域と大学・学生との交流を図りましょう。	大学の発想を生かしたまちづくりを進めましょう。	大学・学生と地域・行政等が連携できる仕組みづくりを進めます。
9 子どもはぐくみ	子どもや子育て家庭を地域全体で見守り、育てましょう。	子どもや子育て家庭の安心・安全を確保しましょう。	妊娠前から育児期、青年期に至るまで、切れ目のない支援を推進します。
10 健康長寿	楽しみながら生涯を通じて健康づくりに取り組みましょう。	地域で顔の見える関係づくりを進めましょう。	健康づくりの機運を高め、区民が主役の「健康長寿のまち・左京」を目指します。
11 障害者福祉	地域で福祉に取り組む意識を受け継ぎましょう。	地域でいきいきとすこやかに暮らせるよう交流しましょう。	地域のネットワークづくりを推進します。
12 地域コミュニティ・安心安全	互いを認め合い、交流を深め、地域活動への参加を呼びかけましょう。	地域の団体との連携により、地域活動の輪を広げましょう。	地域間の交流と情報の共有を支援します。

地域別の現状と課題と方向性

北部（花脊峠以北） 花脊・別所・広河原・久多
北部（花脊峠以南） 八瀬・大原・静原・市原野・鞍馬
中北部 上高野・松ヶ崎・岩倉北・岩倉明德・岩倉南
中南部 北白川・養正・養徳・下鴨・葵・修学院・修学院第二
南部 川東・吉田・岡崎・聖護院・錦林東山・浄楽・新洞

次期中京区基本計画（素案）

まちづくり戦略1

「柔軟で開かれた地域組織づくり」

中京区は、地域住民が主体的にまちづくりに取り組むという自治意識を脈々と受け継いできました。しかし、近年は、人と人とのつながりが希薄になりつつあり、地域コミュニティ活動への参加が減少している傾向にあります。

中京区の住民自治の歴史と伝統の中で培われた「地域力」を未来に引き継いでいくために、自治会・町内会の活動を支援し、地域コミュニティの活性化を推進していきます。

① 開かれた地域組織づくり

持続可能で活力あるまちづくりを目指して、開かれた地域組織づくりや地域情報の発信力強化に向けた様々な取組を支援します。また、自治会・町内会に加入する意義や加入して良かった点等の事例を広く発信することにより、自治会・町内会への加入促進を図ります。

＜主要な取組＞

- ・ 自治会・町内会の加入率向上や活性化に向けた取組への支援
- ・ 自治会・町内会における SNS 等を活用した先進的な情報発信事例の紹介
- ・ 地域交流の促進に向けた学区ごとの取組事例の発信

② 居住形態を超えた地域交流の促進

中京区では、マンション居住の方が増えていますが、こうした居住形態にかかわらず、誰もがご近所との付き合いの大切さを再認識し、地域のまちづくりに積極的に参加したくなるような取組を支援します。また、マンションの新築等により新たに住民となる方の自治会・町内会への加入に向けた地域と事業者との連携を促進します。

＜主要な取組＞

- ・ 各学区へのマンション防災活動への支援
- ・ 自治会・町内会の加入率向上や活性化に向けた取組への支援（再掲）
- ・ 自治会・町内会への加入に向けた地域とマンション等の開発事業者との連携の促進

③ 子ども・若者の地域参加と次世代育成

子どもから高齢者まで誰もが一緒に楽しく参加できるスポーツや文化活動、地域の祭り等を通して世代間交流を促進するとともに、若者に様々な行事の運営に参画してもらうことで次世代の担い手を育成し、地域コミュニティの活性化を図ります。

＜主要な取組＞

- ・ 体育振興会によるスポーツ事業や地域の文化活動への支援
- ・ 地域の歴史文化が体験できる地域の祭りや行事等への子どもや若者の参加促進

④ 新たな担い手の発掘と活躍できる場づくり

従来、地域活動に消極的であった住民の参加を促すため、個々人が培ってきたスキルや経験等を活かして活躍できる仕組みを検討します。また、こうした人々のスキルや経験等を自治会組織の運営に活かすことで、更なる地域住民の参加を促す好循環の流れにつながるよう、新たな担い手の発掘と活躍できる場づくりを進めます。

＜主要な取組＞

- ・ 中京区版「地域人材バンク」など、スキルや経験等を持つ人が活躍できる仕組みの検討
- ・ 地域の歴史文化が体験できる地域の祭りや行事等への子どもや若者の参加促進（再掲）

⑤ 地域組織の新しいあり方の模索

地域コミュニティの担い手不足や高齢化が進む中、地域の枠組みを超えて連携の輪を広げることで課題解決を図ろうとする動きがあります。こうした動きを支援していくことにより、「地域組織の新しいあり方」を模索し、地域コミュニティの活性化を推進します。

＜主要な取組＞

- ・ 町内会・自治会、学区、校区、行政区等の様々な単位での地域交流の促進
- ・ NPO、事業者、大学等の多様な主体との連携の促進
- ・ 大学との包括協定を活かした学生が地域課題の解決に取り組む仕組みの検討

【将来の事業につながる区民アイデア】

- 学生や若者を対象とした地域の魅力を伝えるオリエンテーションを行い、地域への愛着を醸成する。
- 地域交流の取組事例を互いに学び、情報発信する「マンションサミット交流会」を開く。
- 町内会役員の活動の分散化など、地域住民が協力し合って活動できる仕組みをつくる。
- 地域住民と民泊施設との交流イベントを開き、国内外の宿泊者や事業者に地域への理解を深めてもらう。
- 高齢者に「得意技」を登録してもらい、子どもたちに教える場をつくる。
- 堀川音楽高校や銅駝美術工芸高校等と連携して、誰もが集える音楽や文化イベントを行う。

まちづくり戦略2

「誰もが互いに認め合い、支え合えるコミュニティづくり」

少子高齢化や家族形態の変化等を背景に、地域の福祉的課題は複雑化、多様化しています。こうした課題を抱えた人が、地域や社会から孤立することがないように、地域のつながりの中で、より多くの区民が支え合いに関わることができる地域づくりが求められています。

中京区の強みである地域力を基盤として、世代や分野を超えて、すべての人や団体が、それぞれの暮らしや活動の中で、生きがいを共に創り、お互いを尊重し合うことのできる、誰もが健やかでいきいきと笑顔あふれる地域共生社会の実現を目指します。

① 地域で取り組む健康長寿のまちづくり

ひとりひとりが正しい知識を持ち、それぞれのライフステージや状況に応じて、主体的に健康づくりに取り組める環境づくりを進めます。

また、食育や運動等の健康づくり活動を支える地域のボランティアリーダーの育成や活動の充実を図り、区民がお互いに高め合う地域ぐるみの健康づくりを推進します。

<主要な取組>

- ・ 健康づくりに関する情報発信、学習会の開催
- ・ 地域の福祉団体や体育振興会が取り組む健康づくりの取組への支援
- ・ 地域で健康づくりの活動を支援するボランティアの育成

② 誰一人孤立のない地域づくり

ひきこもり、8050問題、生活困窮など、地域には様々な理由で、生きづらさを抱えている人がいます。誰一人孤立のない地域を目指し、地域で当事者の課題に「気づき」、「関心を持ち」、「互いに認め合える」関係をつくり、地域での支え合いの充実や公的支援・サービスに円滑につながることのできる、お互いに助け合えるコミュニティづくりを推進していきます。

<主要な取組>

- ・ 当事者の課題への理解と意識の向上につながる啓発の実施
- ・ 地域の福祉団体等が取り組む見守り活動への支援
- ・ 地域における福祉活動の担い手の育成

③ 世代を超えた地域交流の促進

共働き世帯が増え、世帯人数が減少する中、親の介護と子育てを同時に抱えるなど、複雑化、多様化する生活課題に個々の家庭だけで対応していくことは難しくなっています。地域全体で支え合う相互扶助の実現を目指し、身近な地域の顔が見える関係づくりにつながる「世代を超えた地域交流」を促進します。

<主要な取組>

- ・ 地域における交流の場づくりや交流事業への支援
- ・ 地域における支え合い活動の周知・啓発の推進

④ 支援者ネットワークの強化と連携

多様化する地域の福祉ニーズに対応するには、各分野で活躍するあらゆる関係者が連携していくことが重要です。地域福祉推進委員会が進める「福祉のまちづくり体制整備事業」など、既存の関係者の連携を深め、ネットワークを強化するとともに、大学、企業、NPO など多様な主体との連携、協働を促進します。

<主要な取組>

- ・ 支援者ネットワークの強化と連携による分野横断的な支援体制の充実
- ・ 多様な主体が連携・協働して取り組む活動への支援

⑤ 将来の担い手を育み、コミュニティをつないでいく学びの場づくり

今後より一層、地域における相互扶助が重要になってくる中、現在の福祉課題への対応と並行して、将来の担い手を育成していくことが重要です。子どもや若者も含めた次の世代の担い手が、当事者と出会い、課題に気づく機会をつくっていくことで、地域で育まれてきた支え合いのコミュニティを継承していきます。

<主要な取組>

- ・ 学校や地域団体等と連携した子どもたちへの学びの機会の創出
- ・ 地域における福祉活動の担い手の育成（再掲）

【将来の事業につながる区民アイデア】

- 少人数のウォーキングやマルシェなど、誰もが気軽に参加できるイベントをつくる。
- クラウドファンディング等の仕組みを活用して認知症の人が接客する「注文を間違える料理店」をつくる。
- 就労経験のない方が安心して社会に出る機会（例：カフェやパン屋など）を提供するとともに、その場で当事者や家族が相談できる場をつくる。
- メンタルヘルス対策に積極的な企業をPRする。
- 絵本が読める場所など、多世代が交流しつながるコミュニティカフェをつくる。
- 効率的・効果的な見守り活動をするため、地域で活動する団体間の情報共有を進める。
- 福祉団体のニーズと企業の社会貢献活動をマッチングする。
- 支援団体が活動する際、子どもたちができる仕事を用意し体験できるようにする。
- 大学生が運営する子ども食堂をつくる。

まちづくり戦略3

「地域ぐるみでの子育て環境の充実」

子育てをめぐるっては、世帯規模の縮小や地域コミュニティの希薄化等による保護者の孤立化、仕事と子育ての両立の難しさなど、様々な課題があります。

地域ぐるみで子育て支援体制を強化するとともに、子どもたち自身の成長や子育てを通じた保護者の学びを後押しすることで、保護者が不安を抱えず楽しみながら子育てができる環境づくりを進めます。

① 安心して子育てができる環境づくり

若い世代が安心して子どもを産み育てていく環境をつくるには、子育てをする保護者の不安や悩みを解消し、負担を減らしていくことが必要です。

子どもを産み育てることの素晴らしさを、将来、親となる世代も含め社会全体が実感できるよう普及啓発に取り組むとともに、妊娠から出産、育児まで切れ目のない支援体制の充実を図ります。

<主要な取組>

- ・ 子育てに関する情報発信・講座の充実
- ・ 家庭訪問や相談など子育て支援体制の充実
- ・ 子育て世代が交流できる機会の提供

② 地域における子育て支援活動の活性化

中京区には、子どもたちを「社会の宝」として地域全体で育てていく、といった「人づくりの伝統」が脈々と受け継がれ、今も地域に根付いています。

子育てサロンなど地域主体の子育て支援活動の活性化を図り、地域全体で子育て家庭を温かく見守り、支え合う、子育てしやすいまちづくりを推進します。

<主要な取組>

- ・ 保健師や保育士等の専門職の派遣など、地域の子育てサロンへの活動支援
- ・ 地域の子育て支援団体やボランティア団体への活動支援

③ 子どもの学びを応援する多様な仕組みづくり

子どもたちが健やかに育ち、社会の中で生きる力を身につけていくには、子どもの頃から地域社会の一員として愛され、多様な世代との交流の中で社会のルールや支え合いの気持ちを身につけていくことが重要です。

学校や関係機関との連携のもと、地域における子どもたちの居場所の確保やスポーツ、伝統文化、防災など様々な地域行事への参加を支援することで、次代を担う子どもたちの学びを後押しします。

<主要な取組>

- ・ 学校を拠点とした地域における子どもの居場所づくりの推進
- ・ 地域行事への子どもたちの参加促進

④ 子育てから広がる学びの環境づくり

子育てでは、次世代の担い手を育てるだけでなく、保護者にとっても子育てを通じた学びの機会であり、新たなことに挑戦し、知識を広げるきっかけとなります。

子育て世代の交流促進や親子で一緒に参加できるイベントの実施等により、親子でともに学び、成長できる環境づくりを進めます。

<主要な取組>

- ・ 親子で区内の歴史や文化を学べる機会の提供
- ・ 子育て世代が交流できる機会の提供（再掲）

⑤ 子育てネットワークの充実

子育ての孤立化をはじめ様々な課題に対応するには、地域団体、NPO や福祉団体、学校など関係者の連携が重要です。子育てを支援する関係機関の連携を深め、ネットワークの充実を図るとともに、大学、企業など多様な主体との連携、協働を促進していきます。

<主要な取組>

- ・ 関係機関・団体のネットワークの強化と更なる連携の拡大
- ・ 地域の子育て支援活動と多様な主体の連携促進

【将来の事業につながる区民アイデア】

- 不妊症や不育症に悩む人向けに、妊活に関する相談会を開く。
- 子育ての悩みを SNS で相談できる窓口を設置する。
- 産後うつを防ぐため、地域ぐるみで産後の母親へのサポートを強化する。
- 地域の育児経験者を「子育てマイスター」に任命し、気軽に相談できる体制をつくる。
- リタイア世代の活躍の場として、子育て支援事業に積極的に関わってもらう。
- 空き家等を活用したコミュニティカフェなど、親も子もみんなが育つ居場所をつくる。
- 中京区の史跡・名勝等を活用した、親子で京都の歴史・文化に触れる機会をつくる。
- 父親が子育てに参加することを目的に、子どもと一緒に参加するクッキングイベントを開く。
- 大学生主体による子どもの学習支援を行う場を設ける。

まちづくり戦略4

「地域ごとの歴史文化を活かした個性あるまちづくり」

中京区では、地域ごとに伝統行事等が脈々と受け継がれてきたことで、一体感を醸成し、地域のまとまりを生み出してきました。また、門掃き・打ち水等の暮らしの文化や伝統産業が一体となり、京町家や「通り」が織りなす個性的な景観を形成しています。

こうした区民が誇りとし大切にしてきた「地域の宝」を未来に継承するとともに、地域の個性を生かしたまちづくりに取り組んでいきます。

① 歴史文化の再発見と継承

地域の歴史文化は、地域の誇りであり、地域の個性や特徴を体現しています。子どもたちが地域に息づく歴史や、暮らしの中に継承され根付いている文化を再発見し、身近に感じる機会をつくるなど、それらに愛着を持ち、守り、育てるきっかけになる取組を行うことで、地域の歴史文化を次の世代へと継承していきます。

<主要な取組>

- ・ 地域の暮らしの文化に関する学習会やイベントの実施
- ・ 親子で地域の祭りを楽しめる取組への支援
- ・ 地域の祭りや伝統行事に関する情報の収集と発信

② 地域個性の再認識と発信

中京区の豊富な歴史文化資源は、長い年月の中で多くの来訪者との交流により育まれてきました。こうした地域の個性を再認識するとともに、誰もが憧れ、移り住み、住み続けたいと思えるまちを目指し、その魅力を内外に発信する取組を推進します。

<主要な取組>

- ・ 地域の歴史文化資源を巡るまち歩きツアーの実施
- ・ 地域の歴史遺産や文化の魅力発信
- ・ 地域の魅力を発信する人材の発掘と活躍の場づくり

③ 伝統産業の活性化

華道など文化活動が盛んな中京区では、文化や芸術と密接に結びつきながら、日々の暮らしの中に伝統的工芸品が溶け込んでいます。区民が気軽に「作り手」である職人の匠の技や心に触れ、伝統産業をより身近に感じる機会をつくることで、「ホンモノ」がある暮らしを次の世代に継承していきます。

<主要な取組>

- ・ 伝統産業を体験・見学できる工房見学ツアーの実施
- ・ 現代の生活に伝統的工芸品を取り入れる実践例の発信

④ 歩いて楽しいまちなかの創出

四季の移ろいを大切にする暮らしの文化が根付く中京区では、「通り」は暮らしや催事が営まれる人々が集い華やぐ舞台です。安心・安全、快適で魅力的なまちなかを目指す「通りの復権」(※1)の取組を進め、区民はもとより訪れた方誰もが、歩いて楽しいと実感できるまちづくりを推進します。

<主要な取組>

- ・ 「通り」や暮らしの文化を学ぶ講座の実施
- ・ 地域団体や学校と連携した「通り」の安全を確保する取組の推進

※1 「通りの復権」

中京区では、区民の暮らしや生業、催事や伝統が古くから「通り」で営まれてきましたが、現在では「通り」が単なる通過空間になってしまっています。そのため、クルマ中心のライフスタイルからの転換を図り、安心安全に往来できる、区民の日々の暮らしや生業の空間としての魅力ある「通り」の復権を目指した取組を進めています。

⑤ 「通り」を活かしたまちづくり

京町家等の建物や緑がある美しい街並みは、長い年月をかけて地域や「通り」ごとの歴史や文化と一体となり形成されてきた「地域の宝」です。各地域で行われてきた調和のとれた景観保全の活動に学び、先人たちの残した貴重な財産を次代に引き継ぐとともに、「通り」を活かしたにぎわいづくりを推進します。

<主要な取組>

- ・ 地域景観づくり協議会の活動など地域で展開される取組の発信
- ・ 「通り」を活かした交流事業の支援

【将来の事業につながる区民アイデア】

- 民間団体と連携して体験型や地域密着型のまち歩きツアーを企画する。
- 各学区で伝統産業等の地域資源を活かしたワークショップを行う。
- 学生が地域の祭りや伝統行事への参加を通して、京都の奥深い文化を学べる仕組みをつくる。
- 地域の祭りの装飾品紹介など、普段は公開されていない地域資源を鑑賞する機会をつくる。
- 区民の目利き力を活かし、伝統的工芸品など「京もの」を売る店を応援する。
- 地区計画など都市計画制度を有効利用した取組を普及させる。
- 駒札の積極的な整備など、誰でも手軽に歩いて歴史を学べる環境をつくる。

まちづくり戦略 5

商い・ものづくり・学問のつながりが生み出すにぎわいづくり

中京区は、市内で最も多くの事業所がある経済活動の中心地であり、魅力的な個店で構成された商店街の活動が活発な地域です。地域に根差して活動する地域企業も多く、さらに、近年は、社会的な課題解決を目指すソーシャルビジネスを展開する企業や起業する学生の活躍も増えています。

今後も多様な主体が活躍する中京区の強みを最大限に発揮し、地域や社会の様々な課題の解決に取り組む中で、全国に発信できるような、先導的な課題解決のモデルづくりにも挑戦していきます。

① 魅力ある個店の集積

魅力的な個店が集積する中京区では、事業者が互いに切磋琢磨し、京ものに代表される質の高い商品が提供されてきました。地域に根づく目利きの力によって、事業者を応援する文化を継承していくことで、「にぎわいと華やぎのある都心商業」の振興を図ります。

<主要な取組>

- ・ 伝統産業体験など、次の世代を担う若者の目利き力を養う取組の推進
- ・ 新たな魅力を創造する若手事業者や老舗の挑戦的な取組の発信

② 協働による商店街の活性化

商店街は、区民の日常の暮らしを支えるとともに、地域住民、学生、事業者など多様な人々が集まるコミュニティの場として、地域の祭りや行事の継承・発展にも大きく貢献してきました。こうした商店街を核とした協働の取組を支援することで、にぎわいのあるまちづくりを推進していきます。

<主要な取組>

- ・ 商店街が学生や地域住民を巻き込んで実施するまちづくり活動への支援
- ・ 区民の暮らしを支える商店街のにぎわいづくりへの支援

③ 大学との連携

「大学のまち京都」では、国内外から集まる学生がキャンパスを飛び出すことで学びを深めるとともに、まちの活性化に貢献してきました。大学の有する人材、知識、情報等の資源をまちづくりに活かすべく、地域団体や産業界との連携を促進していきます。

<主要な取組>

- ・ 市民講座など大学の実施する地域貢献イベントとの連携
- ・ 大学の教育・研究活動や地域活動を望む学生と地域団体等とのマッチング

④ 地域企業との連携

中京区内には地域の祭りや福祉など地域活動を支える企業が多数存在し、まちづくりの担い手として活動しています。こうした地域企業の取組を見える化することで、地域内雇用につなげるとともに、環境や防災など地域で活躍するNPO等の市民活動との連携を図ることで、企業のまちづくり活動への更なる参画を促進します。

<主要な取組>

- ・ 次代を担う若者が地域企業と交流する機会の創出
- ・ 地域企業が新たな商品・サービスを開発するきっかけとなるNPO、地域住民、学生とのオープンな対話の場づくり

⑤ 社会課題解決型ビジネスの集積

近年、中京区内では、社会課題解決を目的に新しい事業を展開するソーシャルビジネス事業者が活躍しています。産学公連携に市民も加えた多様な主体が協働できる場づくりを進めることで、地域課題や社会課題を解決する多くの新しいビジネスアイデアが生まれるまちを目指します。

<主要な取組>

- ・ イチバンボシギフトなど社会的企業との連携による事業の推進
- ・ 地域課題や社会課題解決のための多様な主体が集い協働・協創する場の創出

【将来の事業につながる区民アイデア】

- 商店街のアーケードを活用したキッズリレーなど、商店街で普段はできない特別なイベントを行う。
- 空き店舗を活用して若手起業家を支援するチャレンジショップをつくる。
- 大学の施設を利用した子ども食堂など、大学と地域団体等の活動をつなぐ。
- 地域の夏祭り等に学生が参加・協力できる仕組みをつくる。
- 環境や福祉など地域課題の解決に向け、大学発のソーシャルビジネスの実現を支援する。
- 学生が起業家から起業のノウハウを学べるインターンシップの仕組みをつくる。
- 大学や博物館等と連携して、中京区が登場するマンガの中に描かれた場所を巡る「聖地巡礼ツアー」を企画する。
- 金融機関や支援機関と連携し、ソーシャルビジネスプランコンテストを開催する。

まちづくり戦略6

安心・安全に住み続けられるまちづくり

中京区は、平安建都以来、戦乱や災害、疫病など、あらゆる危機を乗り越え、地域の結束力に磨きをかけてきましたが、現在においても、防犯や防災、交通安全、空き家対策など様々な課題に直面しています。こうした課題を克服するには、多様な主体が相互に連携・協力し、協働することが必要です。

中京区が誇る高い「地域力」、「市民力」を結集・発揮することで、安心・安全に住み続けられるまちづくりを推進します。

① 安心・安全ネットワークの充実

安心・安全な地域づくりには、地域住民、事業者と区役所、警察、消防、学校等関係機関の連携が欠かせません。防犯や防災、子どもの安全、地域福祉等の幅広い分野で、それぞれの組織の強みを活かした取組を展開することで、地域の安心・安全ネットワークの充実を図り、地域の多様な課題に柔軟に対応できるまちの実現を目指します。

<主要な取組>

- ・ 区内の関係機関と地域、事業者が連携した安心・安全の取組の実施
- ・ 地域における防犯活動や見守り活動への支援

② 防災・減災に向けた日常的な協力関係の構築

災害発生時は、自分自身の身を守る「自助」とともに、近所の人たちと協力しながら地域の安全を守る「共助」の取組が重要です。日ごろから住民同士の顔が見える関係づくりを後押しするとともに、自治連合会・自主防災会や消防団等によるまちの危険箇所の対策や避難所運営訓練など、地域における防災・減災の取組の支援を強化します。

<主要な取組>

- ・ 地域住民による実践型防災訓練の開催支援
- ・ 要配慮者（乳幼児や妊産婦、高齢者、障害者等）の避難支援の取組の促進

③ 歩行者優先のまちづくりと交通マナーの確立

安心・安全で、日々の暮らしや生業の空間として魅力的なまちなかを目指す「通りの復権」を実現するには、まずは車中心の単なる通過空間ではなく、「歩くこと」を中心としたまちに転換することが重要です。

歩行者優先のまちづくりを目指し、車や自転車の交通ルールの順守やマナー向上の取組を推進します。

<主要な取組>

- ・ 親子で楽しく交通ルールやマナーを学べるイベントの開催
- ・ 地域団体や学校と連携した「通り」の安全を確保する取組の推進（再掲）

④ 観光客へのマナーの普及

中京区には、国内外から多くの観光客が訪れる一方、京都の文化や習慣に対する理解が十分に浸透していないため、トラブルが発生するケースも見られます。旅行者や事業者や宿泊事業者など関係者と連携し、観光客へのマナーの普及を図ることで、市民生活を最重要視した持続可能な観光を推進します。

<主要な取組>

- ・ 観光資源の魅力の背景にある暮らしの文化の発信
- ・ 関係者と連携した外国人観光客に対するマナー情報の発信

⑤ 空き家活用の促進

空き家は、将来の住まいやオフィスなど、まちの活力を生み出す貴重な資産である一方、老朽化した空き家の放置により生活環境や景観の悪化、防犯・防災上の課題が生じています。これらの課題を解決するために、必要な情報の発信を強化するなど、空き家の活用と解消を促進していきます。

<主要な取組>

- ・ 建築士、司法書士、宅地建物取引士など専門家と連携した情報発信
- ・ 空き家の利活用に取り組み地域への支援

【将来の事業につながる区民アイデア】

- マンション居住者が地域の防犯・防災活動に積極的に関われる仕組みをつくる。
- 各地域の防犯・防災対策の成功事例を広める。
- 避難所を使用した避難生活を体験できるイベントを開く。
- 地域の避難場所に加え、地域ならではのお役立ち情報（災害用トイレ、井戸など）を明示した案内板をつくる。
- 自転車のルールや駐輪場の場所等を記載した「自転車乗り方ブック」をつくる。
- ピクトグラムを活用により、外国人にもわかりやすいマナー啓発の看板をつくる。
- 空き家を有効活用した事例の建物見学会を開く。

まちづくり戦略7

持続可能なライフスタイルの継承・発展

地球温暖化は、自然災害の頻発や健康被害、水や食料不足など、私たちの暮らしにとって大きな脅威になりつつあります。50年後・100年後も持続可能なまちであり続けるには、一人一人がこれまでの生活を見つめ直し、環境負荷を低減させるための具体的な行動を実践していくことが必要です。

国内外から多くの方が訪れる、伝統と進取の気風を持つ中京区から、環境にやさしいライフスタイルやまちなか緑化の取組を推進し、広く発信していくことにより、持続可能な社会の実現に貢献します。

① より環境負荷の低い消費・販売・生産活動への転換

限られた資源を有効利用し、持続可能なまちづくりを推進していくには、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会構造を転換していくことが求められています。生産から消費まであらゆる段階での意識と行動の変革を目指し、食品ロス対策をはじめとした2R(※1)や省エネルギー等の取組を事業所の集積する中京区から推進していきます。

<主要な取組>

- ・ エシカル消費（倫理的消費）(※2) など環境に優しい消費行動の普及啓発
- ・ 家庭・事業所での省エネルギーの取組促進

※1「2R」

そもそもごみを出さないリデュース（Reduce）と再使用するリユース（Reuse）

※2「エシカル消費（倫理的消費）」

消費者が各自にとっての社会課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと

② 昔ながらの暮らしの知恵の再発見

通り庭など様々な工夫が施された京町家や、日々の暮らしの無駄をなくす「しまつの心」など、中京区には、快適に過ごすための「暮らしの知恵」が受け継がれています。こうした先人の知恵に学ぶとともに現代の最新技術との融合を図っていくことで、無理なく、少しの手間や工夫で環境負荷を抑えた快適な暮らしの実現を目指します。

<主要な取組>

- ・ しまつの心やおぼんざいの食文化など「暮らしの知恵」の発信
- ・ 家庭や地域で実践されているエコ活動の先進事例の発信

③ 環境に配慮した交通手段の利用促進

公共交通機関が充実し、徒歩や自転車での移動も容易な中京区から、過度に自動車に依存しない生活の機運を高め、率先してエコな移動方法を選択する運動を展開することで、環境はもとより、健康にも優しいまちを目指します。

<主要な取組>

- ・ 過度に自動車に依存しないライフスタイルの普及啓発
- ・ 自転車ルール・マナーの改善を呼びかける啓発の実施

④ 緑化とまちの美化

身近な緑を増やすまちなか緑化の取組や、一斉清掃など地域で活発に行われている環境美化活動を促進することで、環境にも人にもやさしいまちづくりを進めます。

<主要な取組>

- ・ 家庭や事業所における屋上やベランダ、庭先での緑化の促進
- ・ 次代を担う子ども向けの緑化や環境に関するイベントの開催
- ・ 区民ぐるみで進める環境美化活動の促進

【将来の事業につながる区民アイデア】

- エシカル消費や省エネ、ごみ減量などのアイデアが掲載された「中京エコライフ実践マニュアル」をつくる。
- 地域において災害時も利用できる再生可能エネルギーを用いた新たな電源を確保する。
- 余剰食品・日用品を子ども食堂等の福祉的な活動に寄附する仕組みをつくる。
- 不要になった子ども用品等を交換できるイベントを充実させる。
- 身の回りの家電や家具、衣類等を修理する「リペアカフェ」を開く。
- 家庭や事業所における坪庭文化を広める講座などの開催や事例を紹介する。
- まちぐるみの緑化を促進する「中京緑化コンテスト」を開く。

現行基本計画(2011～2020)…10年間

1 東山・まち・みらい計画 2020とは (1) 計画の目的 (2) 計画の期間 (3) 計画の位置付けと方向性 (4) これまでの取組経過
2 まちづくりの理念と方針 (1) まちづくりの理念 (2) 未来像とまちづくり方針
3 今後10年間に進める施策と取組 (1) 自然環境「自然環境の保全」 ・地球温暖化が進行し、天然資源の枯渇が危ぶまれています ・東山の自然景観を守り育てていくことが大切です ・クルマ中心社会の進展により、交通渋滞など区民生活への影響が増大しています ・ごみのポイ捨てなどのマナーの乱れが、まちの美しさを損ねています (2) 産業・観光「経済活動の活性化」 ・小売業やサービス業の割合が高く、小規模事業所が東山区の経済を支えています ・伝統産業をはじめとした自営業者が減少しています ・魅力のある商店・商店街の振興が必要です ・京都観光をリードする東山区の役割は重要です (3) 保健・福祉・教育「健やかで心豊かな生活の確保」 ・人口の減少と少子化が著しく進んでいます ・子どもや高齢者が集う場などが少なく、子育て環境の整備が必要です ・学識説明資料学校統合により、まちの活性化に期待が寄せられています ・資料少子高齢化や家族規模の縮小等による高齢社会の問題を多く抱えています ・学識説明資料高齢者や障害のあるひとなどの日常生活への援助が必要です ・だれもが生涯を通じて心身ともに健やかで暮らすための健康づくりの支援が重要です (4) 景観・都市基盤「安全で快適な都市づくり」 ・古い建物や空き家が多く残る地域です ・防災に対する高い意識と、地域と行政の協働の力でまちが守られています ・マンションの増加などによる景観への影響を住民同士で考えることが大切です ・地域に密着した路地の保全が大切です ・狭い道路が多く、違法駐車などにより、歩行者の安全確保が課題となっています ・ユニバーサルデザインに基づく公共施設や道路等の整備が求められています (5) コミュニティ・自治(地域力の向上) ・区民と行政が協働で未来の東山区をつくっていきます ・人と人との関係が希薄化し、住民同士の交流が不足しています ・長年培われた自治組織を継承し、地域を活性化することが求められています ・伝統行事は地域の文化をつくっています ・大学などとの連携によるまちづくりの推進の強化が求められています
4 重点プロジェクト 5 計画の実現に向けて 6 東山からのメッセージ 学区まちづくりビジョン



現行基本計画での主な取組成果

・東山「観光・交通・環境(3K)」協働会議での活動、東山区獣害対策協議会の設立
・手しごと職人のまち東山プロジェクトの推進、東山南部地域の魅力発信プロジェクトの推進
・小中一貫校(開晴館・東山泉)の整備による教育環境の充実
・子どもはぐくみ室を設置し(H29年)妊娠前から出産、子育てまで、切れ目のない支援の実施
・保育所・児童館における待機児童の解消
・「健康長寿のまち・東山」の実現に向けた取組の推進
・区役所に総務・防災課長、地域防災係長を設置(H24年)
・世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動 東山区版プログラム(H28年)
・京都市地域コミュニティ活性化推進条例並びに活性化推進計画に基づく取組(地域力アップ学区活動連携支援事業、地域力アップキャンペーン月間)

策定方針	・次期基本計画の期間は、京都市基本構想の残期間に合わせ 5年間 ・現行計画を踏襲しつつ、 レジリエンス、SDGs など、社会経済情勢を踏まえるとともに、 人口減少 への歯止め、 少子化対策 に取り組むとしています。
意見聴取	幅広い区民から意見聴取してきました。その中で、踏襲とはいえ、次期基本計画への位置づけで、強化、充実、拡大など 進化させる項目 が多く、また、 追加検討すべき課題 も明らかになってきました。
再編方針	分野ごとに、現行計画の今日の状況を確認し、区民の声を踏まえ、追加検討すべき課題も加味し、更に、区民に分かりやすく、確認・共有しやすいように再編 ① 外国人観光客急増 に伴う現象について、「産業・観光」の分野では、振興に向けての課題であるので、「 市民生活 」の分野の課題として独立 ② 保健・福祉・教育は、 少子化による人口減少の克服、長寿命化への対応課題が拡大し、「子ども」 分野を独立 ③ 頻発する自然災害への備えと安心安全への取組を合わせて「 防災・防犯 」を独立(増設等の再編に伴う調整で一部統合)

分野別・次期計画へ反映すべき視点

・自然、歴史、文化、祭りなど「東山の魅力」を区内外に広く発信し、地域への愛着深化 ・「市民生活との調和を最重要視した持続可能な観光都市」の実現
・地域の暮らしを担う小売店、商店街等での買い物客を確保 ・東山の立地、強み、特徴等を生かした商店街活性化の推進
・子ども・若者・子育て家庭の孤立化・ひとり親の増加・子どもの貧困の増加 ・児童虐待の増加・不登校児(→ひきこもり)の増加 ・医療的ケアが必要な子ども・特性のある子どもの増加 ・観光客の急増による危険性の増大 ・学校統合による学区意識の希薄化
・地域や人とのつながりの中で市民が主体的に健康づくりに取り組むまちづくりが必要 ・元気な高齢者が地域の担い手として活躍する社会を構築していくことが課題 ・「京都市版地域包括ケアシステム」の深化・推進 ・認知症高齢者やひとり暮らし高齢者等が地域で暮らし続けられる対策が必要 ・ますます進展する人口減少、家族規模の縮小、高齢世帯の増加等による地域課題の複雑化、多様化への対応が課題 ・複数の問題を抱えてしまう世帯等の増加、家族や地域・社会とのつながりづらい人・世帯等の社会的孤立が深刻化 ・すべてのひとが尊重し合い、地域社会の中で、お互いに認め合い、支え合い、安心して暮らせるまちづくりの推進
・自然災害等の被害を最小限に抑えるためには、区民が的確な行動を取れるよう、避難情報や被害状況等を迅速・的確に発信することが不可欠であり、関係機関等とも連携し、情報の収集・集約・伝達体制の強化を図ることが必要 ・自然災害等発生時に、情報把握、避難、生活手段の確保等を円滑かつ迅速に行うことが困難な高齢者、障害のあるひと、子ども、外国人等の要配慮者に対し、受け取り手に応じた情報の伝達、地域における支援体制づくり、避難所等の環境改善等の支援の充実が課題
・各自主防災会で、大規模災害を想定した訓練や、避難所運営訓練の実施及び訓練結果を踏まえた運営マニュアルの充実見直し等を行っているが、地域防災力のさらなる充実強化を図るとともに、市民ひとりひとりが主体的に行動できるよう、訓練の充実や市民への防災啓発等の強化を行っていくことが必要
・世帯構造やライフスタイルの変化など、さまざまな要因によって自治会・町内会加入率の伸び悩みが続いており、つながりの希薄化や高齢化の進行等による担い手不足の顕在化
・地域企業や大学等が、伝統行事の継承、地域活動への協力、子どもや高齢者の居場所づくりなど、地域の特性に応じた取組を進めているところがある。大学、高校等との連携の更なる拡大・推進が課題
・学校統合による広域化や複数の元学区にまたがる課題での連携

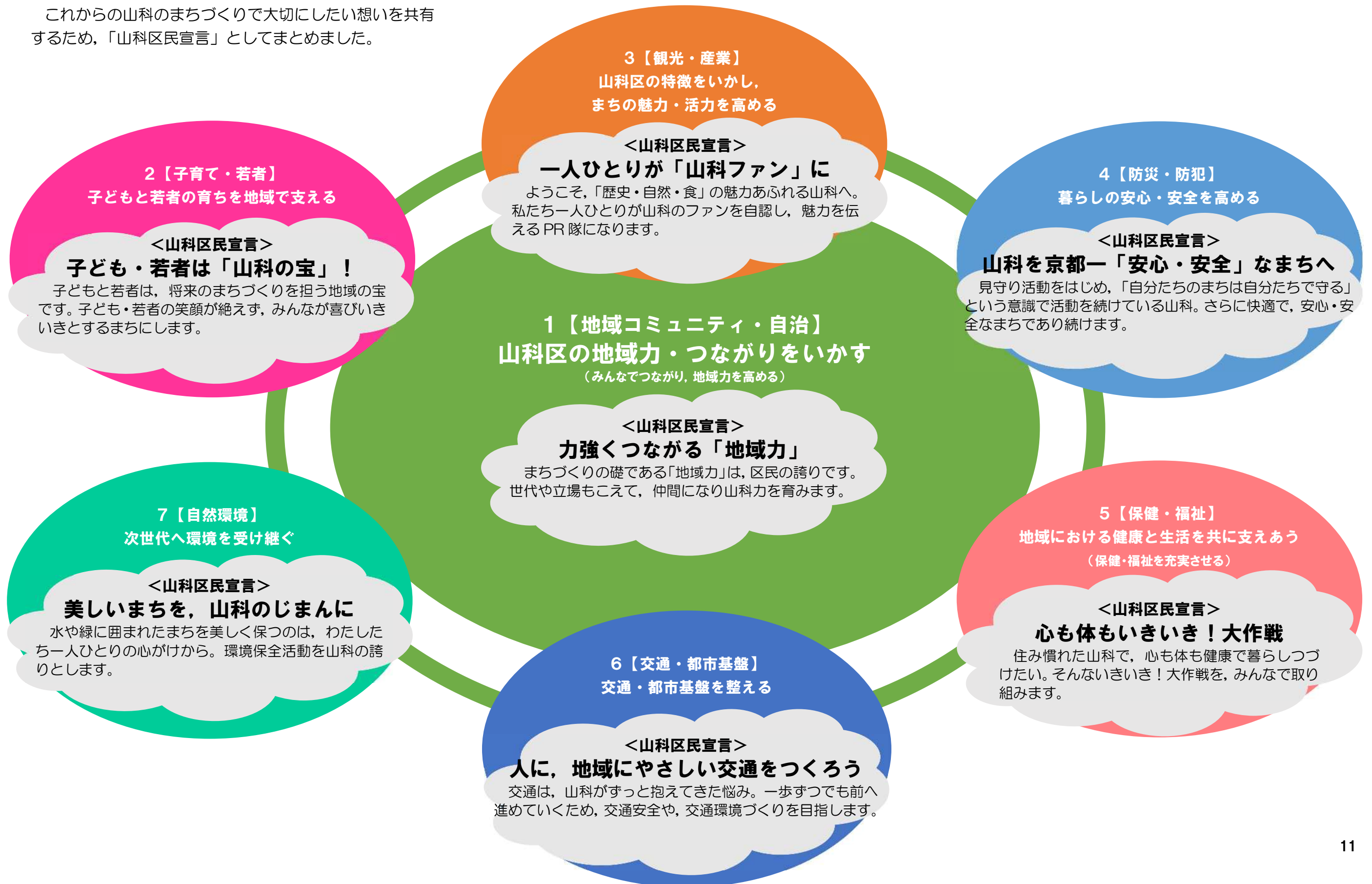
次期基本計画(2021～2025)…5年間
1 「(計画の名称) ○○○○ 」とは (1) 計画の目的… 修正 (2) 計画の期間… 修正 (3) 計画の位置付けと方向性… 修正 (4) これまでの取組経過… 修正
2 まちづくりの理念と方針 (1) まちづくりの理念… 修正 ※基本姿勢は 踏襲 (2) 未来像とまちづくり方針 ※キャッチフレーズは 踏襲 ・未来像… 踏襲 ・まちづくり方針… 修正
3 今後5年間に進める施策と取組… 再編成
1 環境 2 人権・男女共同参画 3 市民生活とコミュニティ 4 市民生活の安全 5 文化 6 スポーツ 7 産業・商業 8 観光 9 農林業 10 大学 11 国際 12 子ども・若者支援 13 障害者福祉 14 地域福祉 15 健康長寿 16 保健衛生・医療 17 学校教育 18 生涯学習 19 危機管理・防災・減災 20 歩くまち 21 土地・空間利用と都市機能配置 22 景観 23 建築物 24 住宅 25 道と公園・緑 26 消防・救急 27 暮らしの水
4 重点プロジェクト 5 計画の実現に向けて … 修正 6 東山からのメッセージ … 修正 学区まちづくりビジョン

次期京都市基本計画・政策の体系の27分野をグルーピングして【東山区分野】を定めます。

※グルーピング例「住みよいまちづくり」
1 環境
21 土地・空間利用と都市機能配置
22 景観など

2. まちづくりを協働で取り組む「山科区民宣言」

これからの山科のまちづくりで大切にしたい想いを共有するため、「山科区民宣言」としてまとめました。



3. まちづくりのテーマと取組

2【子育て・若者】

子どもと若者の育ちを地域で支える

(1) 地域ぐるみで子育てを見守る

- 地域ぐるみで子どもを見守る
- 課題や困難を抱えた家庭への寄り添い支援を行う

(2) 地域ぐるみで子どもの学びを応援する

- 地域ぐるみで小・中学校の学校教育を応援する
- 校外で子どもたちが学び・成長する機会を提供する

(3) 子育て世帯に保健福祉サービスと保育・幼児教育を提供する

- 子育て世帯が安心できる保健福祉サービスを提供する
- 保護者のニーズに対応した保育・幼児教育を提供する

(4) 子育て世帯の交流を促しネットワークをつくる

- 子育て世帯を地域全体で温かく見守る
- 地域の子育て施設や子育てサロン・子育てサークルでの交流を促す

(5) 若者の成長と社会参加を応援する

- 若者に居場所や様々な経験と交流、自治活動への参画の機会を提供する

3【観光・産業】

山科区の特徴をいかし、
まちの魅力・活力を高める

(1) 暮らしに根ざした観光に取り組む

- 山科区の魅力や特徴をいかした観光に取り組む
- 区民が育む観光に取り組む
- 区をあげて山科区の魅力のPRを行う

(2) 地域資源をいかし産業を振興する

- 特徴ある産業の魅力のPRを行う
- 地域と学校・教育機関との連携を強化する

(3) 文化力・学びを豊かにしまちへの愛着を醸成する

- 区民の探求活動を盛んにする
- 生涯学習活動を盛んにする
- 文化・芸術活動を盛んにし、文化力を高める

1【地域コミュニティ・自治】

山科区の地域力・つながりをいかす

(みんなでつながり、地域力を高める)

(1) 地域のつながりを深め強める

- これまで培ってきた地域活動を継承・発展する
- 自治のつながりを次世代へ継承する
- 自治会や各種団体等の交流を深める
- 一人ひとりが自分ごととして地域にかかわり合うことで豊かな人間関係を育む
- スポーツやイベント等を通じた地域交流を促す

(2) 地域のつながりを広め強める

- テーマ型など新たなコミュニティの形成を促す
- 地域活動を担う層の拡大を促す
- 大学、地域、行政等の連携を一層広げる
- 多文化共生を推進する
- まちづくりをサポートする情報を発信する

6【交通・都市基盤】

交通・都市基盤を整える

(1) 道路を快適にする

- 安全で快適な道路空間の整備・改善に取り組む
- 幹線道路網の交通対策に取り組む

(2) 公共交通の利便性を高め利用を促す

- 公共交通機関の利用を促す
- 地域を支える公共交通の充実を検討する
- 新たな交通手段を検討する

(3) 山科区の持続的な発展に向けた土地利用を目指す

- 「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」を踏まえたまちづくりを推進する
- 「京都市持続可能な都市構築プラン」を踏まえた土地利用や都市機能の誘導を推進する

(4) 良好な景観を形成する

- 良好な都市景観を創出する
- 美しい自然景観・歴史的景観を保全・継承する

4【防災・防犯】

暮らしの安心・安全を高める

(1) 災害への意識を高め、防災の取組を強化する

- 一人ひとりの「防災力」を高める
- 地域防災組織の機能を強化する
- 災害時に備えて地域・企業・行政・医療機関などの連携を強化する
- 総合的な防災・危機管理体制を強化し、災害に強いまちづくりを推進する

(2) 暮らしの安心・安全を支える

- 地域の防犯対策を継続・発展させる
- 生活安全の取り組みの充実を図る
- 交通安全の取り組みの充実を図る

5【保健・福祉】

地域における健康と生活を共に支えあう

(保健・福祉を充実させる)

(1) 全世代型の地域共生社会を進める

- 地域福祉のネットワークを強化する
- 人権文化が息づくまちづくりを進める
- 多文化共生を推進する
- ユニバーサルデザインの普及、推進を図る

(2) 高齢者の暮らしの安心と生きがいをつくる

- 高齢者がいきいきと活動できる場をつくる
- 地域で見守る・支える体制を強化する
- 安心の環境整備を充実させる

(3) 障がいのあるひとの社会生活を応援する

- 障がいのあるひととその家族への生活支援を充実させる
- 障がいについての理解を深め、地域で支える環境づくりを進める
- 安心の環境整備を充実させる

(4) 区民の健康をつくり、守る

- 健（検）診の実施と健康教育・相談を充実させる
- 区民主体の健康づくりを促す
- 地域医療体制を充実させる

7【自然環境】

次世代へ環境を受け継ぐ

(1) まちのうるおい・自然を大切にす

- 自然環境を保全する
- まちの緑を増やす

(2) ごみのないまちをつくる、ごみの出ない暮らしを営む

- 清掃・美化の活動を充実する
- ごみの出ない循環型のまちを構築する

(3) 地域から省エネルギーを考え、実践する

- 徹底した省エネルギー化を進める
- 再生可能エネルギーの普及を進める
- 環境にやさしいライフスタイルを営む

(4) 環境について学び行動する

- 学校等と連携し、環境保全活動の担い手を育成する

【計画の全体構成（案）】

1 計画の基本的な考え方

- 既存のテーマに「レジリエンス」や「SDGs」、文化力」など、分野横断的によこ糸をつむぎすとともに、「人口減少」、「少子化対策」等に取り組み、持続可能な豊かな地域社会を構築する。
- 140周年記念事業を通して培われた区民、団体、事業者の絆を活かして、「自分ごと、みんなごと」のまちづくりをより一層推し進め、次の150周年に向けて京都のまち全体の活性化につなげる。
- 「ウィスコロナ」、「アフターコロナ」を真摯に「しなやかな強さ」を兼ね備えた地域づくりを推進する。

2 下京区の現状と課題（データで紹介）

3 スローガン・めざすまちの姿

—「住んでよし、働いてよし、訪れてよし、学んでよし」の下京区—

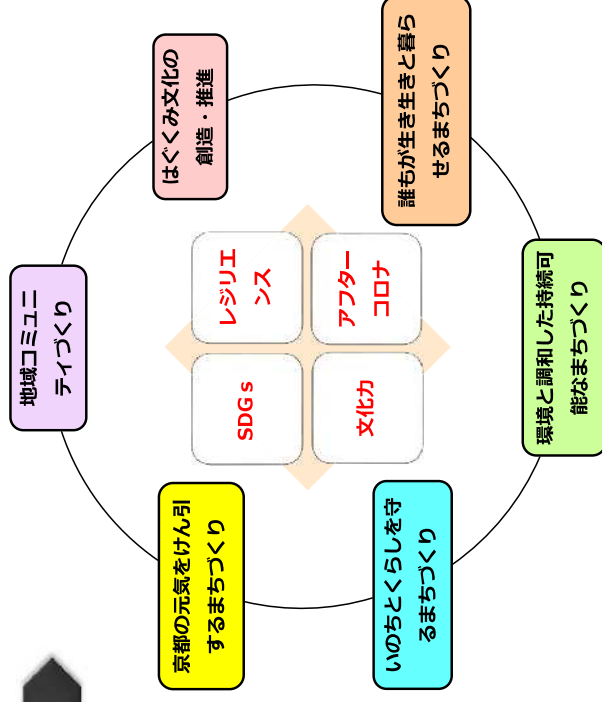
地域の絆・自治の精神が息づくまち、文化・産業で京都の元気をけん引するまち、100年先の未来も区民が誇りに思うまち

4 重点戦略

- ▶ 部会で検討いただいた5つの重点テーマを基本に、「地域コミュニティづくり」を追加し、6つの重点戦略を設定
- ▶ 新型コロナウイルスへの対応を反映

5 戦略に基づく方向性及び主な取組例

- 6 計画の推進体制
 - ・推進と検証の仕組み



▶ コロナへの対応は、本日の区長Meetupでの議論を踏まえ、さらに検討

戦略1 人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり

【現状と課題】

○地域コミュニティを支えてきた地域人材の高齢化等により、次世代の新たな担い手が求められている。

○他行政区に比べて風間人口比率が最も高く、区外から訪れて活動・交流する人材を次代の担い手として育成する必要がある。

【方向性】

地域に関わる各種コミュニティの活性化に向け、多様な担い手による主体的なまちづくりを促進・支援し、自治会・町内会をはじめとする地域と、事業者・NPO・行政等が連携して地域課題を解決できるまちを目指します。

【取組例】

(1) まちづくりを担う人づくり

★地域の事業者や外部（NPO、大学等）の方が町内会活動に参加しやすい仕組みづくり

○自治会、町内会のICT化、地域会議のオンライン化支援（地域活動の効率化、若年・壮世代が入りやすいまちづくり）

○学区情報の発信と情報共有、課題が共通する学区間の交流促進（下京総合Webサイト（仮称）の活用）

(2) 持続可能な地域コミュニティづくり

○区民の交流促進、協働推進（区民ふれあい事業、区長Meetup等）、地域に残る歴史文化、伝統産業、祭り、生活文化等の次世代への継承と世代間交流の推進

★学区における「まちづくり委員会」の設立・活動支援

●新しい生活様式の下での地域活動（会合、夏祭り、地藏盆、各種スポーツ大会など）支援

●コロナの影響で打撃を受けている地域の商店街、飲食店、宿泊施設等を地域で支え合う機運の醸成とキャンペーン展開等の地域一体となった取組への支援

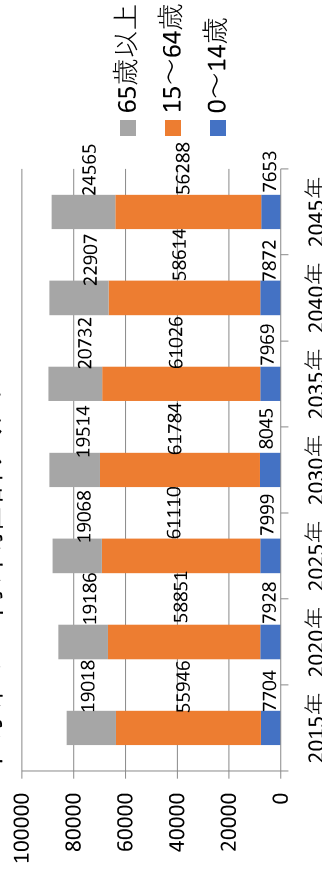
○学校跡地の地域における有効活用促進と支援

(3) 社会・地域課題を解決する仕組みづくり

★まちづくりサポーター事業「SHIMOGYO+GOOD」による社会・地域課題解決の推進

○地域課題解決に向けた地域と団体、事業者、学生等との連携支援 ○地域と調和した宿泊施設の普及支援

下京区の将来推計人口



※国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』



区民の取組

○次世代の地域の担い手育成、地域行事への参加促進

○自治体、町内会活動のオンライン化の推進、ICT環境整備、地域・学区情報の積極的発信

○企業が自治会、町内会に入りやすい仕組み、地域活動に参加できる仕組みづくり（企業の若い社員の巻き込み）

○マンション住民との交流促進、町内会加入促進

（事例）七条第三学区マンション対策委員会

○まちづくり委員会の設立、開催

（事例）有隣学区まちづくり委員会による防災まちづくりの取組



○SHIMOGYO+GOOD等を通じた自主的なまちづくり活動の推進

戦略2 はぐくみ文化の創造・推進

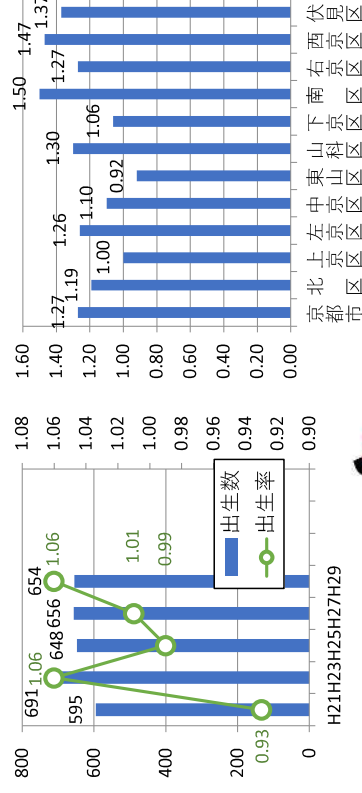
【現状と課題】

○少子化の進行やライフスタイルの変化，コミュニティの多様化による人と人とのつながりの希薄化に対し，個々の状況に応じたきめ細かな支援が求められている。

【方向性】

子どもや若者の可能性を広げるため，未来に希望を持ってたくましく成長できる環境づくりと，誰もが育てながら働き続けられる社会づくりを目指し，地域や支援機関，企業等も含めた全ての関係者が子育ての楽しさ，素晴らしさを共に感じながら，地域ぐるみで子ども・若者・子育て家庭を大切にすまるまちづくりをします。

下京区の出生率・出生数の推移，行政区別出生率の比較



【取組例】

★：リーディングプロジェクト ●：ウイズコロナ社会への対応 下線部は，区民まちづくり会議部会等がいただいた意見に基づいたもの

(1) 子どもと家庭をオール下京（区民・事業者・行政等）ではぐくむ環境づくり

★団体，企業等との連携により地域ぐるみで子育てを支援する「数珠つなぎプロジェクト」の推進

○子育て系ソーシャルビジネスとの連携（行政サービスでは補えない，小さな困りごと，日常の質問に答えられる支援），まち全体をキャンパスに見立てた教育プログラムなど新たな学びのスタイルの創出

○団体・企業・地域の連携による「下京はぐくみEXPO（仮称）」の開催

(2) 特に支援が必要な子ども・若者・家庭等への切れ目のない支援

○「こども食堂」や「コミュニティ食堂」など安心して過ごせる居場所づくりの取組への支援

○保護者同士のつながりの場づくり，保育士・栄養士・助産師等の専門家チームでお母さんを支える仕組みづくり

●コロナ禍で活動が制約される児童，学生等へのオンラインを活用した学び，交流の場の提供

○不登校の子どもやひきこもりの受け皿づくりと才能の開花支援

(3) 子ども・若者が様々な機会を与えられ，主体的に学び，育つ環境づくり

★企業・職人等との連携による子ども・若者を対象とした職業体験や歴史講座等の実施

○子ども・若者の地域活動や社会体験等を通じた，やりがいや楽しさの実感づくり，自己成長の促進

(4) 働くことと子どもを産み育てることを両立できる社会づくり

○下京区から新しい働き方のモデルを発信・提案する「下京子育て応援企業・団体宣言」制度の創設

区民の取組

- 子育てサロンや地域の見守り活動など自主的な活動
- 虐待の予防や早期発見などのための地域のつながりの強化
- 児童館等の子育て支援機関と関係団体等との協力連携



戦略3 誰もが生き生きと暮らせるまちづくりの実現

【現状と課題】

○単身高齢者の増加や，ひきこもり等が潜在化する中，地域や社会からの孤立化を防ぎ，早期の気付きと適切な支援に結び付ける仕組みが必要とされる。

○女性の大腸がん及び男性の脳内出血が市内ワークスト1，適度な運動，食事の栄養バランス等のアンケート回答が市内平均より低下した下京区の健康課題への対策が求められる。

【方向性】

子どもから高齢者まで，障害のある人もない人も，お互いに認め合い，支え合い，誰ひとり取り残さない社会の実現に向け，世代や分野を超えて様々な人や団体等が連携し，住み慣れた地域の中で誰もが「笑顔」で自分らしく，生きがいをもち，健康に安心して過ごすことができるまちづくりを進めます。

【取組例】

★：リーディングプロジェクト ●：ウイズコロナ社会への対応 下線部は，区民まちづくり会議部会等がいただいた意見に基づいたもの

(1) 異文化や多様な生き方を認め合い，誰ひとり取り残さない支え合いのまちづくり

○「子ども・子育て世代」と「高齢者」間の世代のつながりづくり

○事業者との連携による障害のある方が活躍できる事業モデルの創出，地域店舗との連携による高齢者等の買い物支援と見守り活動の推進

○地域・行政・医療等関係機関や民間との連携による高齢者等見守りネットワークの充実，民生児童委員，社協等との連携による「京都市版地域包括ケアシステム」の一層の構築

○医療・介護関係者向け研修会などによる，医療と介護の更なる連携の推進

○社協やハローワーク等との連携による生活困窮者等の自立支援の一層の促進

★「ひきこもりを考える講演会」や「家族交流会」等の開催及び個別支援の充実

○高齢者，障害者の居場所，活躍の場づくり（伝統産業と福祉，農業と福祉の連携や商店街店舗での作品展等），こころの病への理解を深める取組「ヒューマンライブラリー」の開催

○すべての人の人権を尊重する人権文化の構築，外国籍区民がもつ異なる文化的背景や価値観等を尊重し，多様性を生かした協働によるまちづくりの推進（人権月間等での効果的な啓発など）

(2) 人生100年時代を見据えた健康で心豊かに過ごせ，活躍できるまちづくり

★健康長寿のまち・下京の推進（フレイル予防，オーラルフレイル予防，検診受診UP等）

○笑顔による健康づくり「スマイルアップ下京」，自宅のできる健康づくりの啓発

下京区標準化死亡率 SMR 平成20～24年データ



区民の取組

- 顔の見える関係づくり，多様な居場所づくり，地域における見守り活動（事例）各地域包括支援センターでのカフェ事業
- 自主的な健康づくり，介護予防の取組の実施（事例）歩歩塾等によるウォーキング



- 自身や家族等の年齢やライフスタイルに応じた食育の普及促進（事例）食育指導員活動（小学校での魚の解体や児童館でのエプロンシアター等）

戦略4 環境と調和した暮らしが根付く持続可能なまちづくり

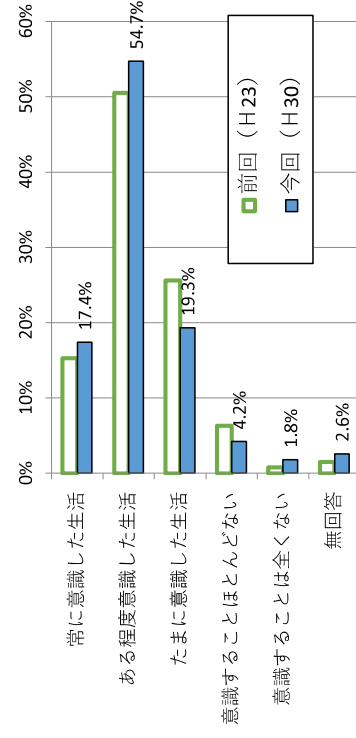
【現状と課題】

- 全23学区が「エコ学区宣言」を行い、エコ活動のほか、門掃きや川の清掃等、清掃活動が盛んに行われ、区民のエコ意識が高い。
- ものを大切にすることを心など、先人からの精神が受け継がれるまちの良さを生かし、環境保全活動を具体的に実践する担い手を増やしていくことが求められる。

【方向性】

京都市が取り組む2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」の達成に向け、区民・事業者の価値観やライフスタイルの転換を進めるとともに、環境について学ぶ機会や環境にやさしい実践活動の担い手育成を通じて、持続可能な循環型社会の実現を目指します。

環境を意識した行動（H30区民アンケート結果より）



【取組例】

★：リーディングプロジェクト ●：ウイズコロナ社会への対応 上線部は、区民まちづくり会議部会でいただいた意見に基づいたもの。

- (1) 徹底した省エネやごみ減量、脱炭素社会に向けた取組の推進や門掃き、打ち水等、京のまちに息づく生活習慣の継続

○食品ロス、使い捨てプラスチック等のごみを中心とした2R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用）の推進及び分別・リサイクルの徹底

○まちの強みである学区単位の活動、自治会・町内会等の地域力を生かした地域密着型の資源物回収の取組の推進

- (2) 区民によるソーシャルプログラム（※）の利用促進をはじめソーシャルビジネスの普及

○区内企業によるソーシャルプログラムの発信支援、区民への利用推奨

- (3) SDGsの理念をいかした地域レベルでの活動促進

○●商店街等での新鮮食品・惣菜購入時の「マイタッパー」の導入

○地域の小売店を繋ぐプロジェクト（フードバンクを活用し、子ども食堂に提供）

○伝統工芸やその素材等を通して自然環境保護やサステイナブルな社会づくりの大切さを知る機会の創出

★地産地消や自然・生物との共生の大切さ、地球温暖化対策、ごみ減量等について学ぶ機会や環境保全活動の担い手づくり

○事業者や区民による再生可能エネルギー由来の電力利用の促進

区民の取組

- 「もったいない」「しまつ」といった先人たちの精神や知恵を活かした2R、分別・リサイクルの推進、門掃き、打ち水等の京のまちに息づく生活習慣の継続
- エコ学区の取組推進、地域での清掃活動（京都駅周辺エコ・クリーン作戦等）、自然・生態系学習（高瀬川等）、緑化活動（花いっぱい運動等）への参加



○公共交通、自転車利用の促進、「歩くまち京都」の推進

戦略5 危機にシなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり

【現状と課題】

- 激甚化する自然災害や巧妙化する犯罪に対し、地域みんなで支え合う共助の取組が求められる。

【方向性】

自然災害等の危機にシなやかに対応できるレジリエントな地域づくりに向け、区民・事業者・行政等の一層の連携強化、ひとりひとりの防災や減災に対する意識の啓発等による「地域防災力」の向上に取り組む、災害に強いまちづくりを推進します。また、身近な地域における防犯活動や交通安全対策を継続して実施し、子どもや高齢者をはじめ、誰もが安心安全に暮らせるまちづくりを推進します。

【取組例】

★：リーディングプロジェクト ●：ウイズコロナ社会への対応 上線部は、区民まちづくり会議部会でいただいた意見に基づいたもの。

- (1) レジリエントな地域づくりに向けたオール東京（区民、事業者、行政等）で取り組む地域防災力の向上

○「下京区民 水災害対応マニュアル」や危険箇所を示すハザードマップ等の活用による防災情報の共有、避難が必要な人の円滑な避難支援体制の構築

★工夫を凝らした防災啓発の推進（楽しみながら学べる防災訓練プログラム（体験型防災ゲーム）、防災・福祉まち歩き会、減災カフェ、避難所運営ゲーム）

○スマートフォンを活用した防災マップなど、ICTの活用

○地域と協働した、防災・防犯をテーマとするソーシャルビジネスの創出

○事業者の防災訓練への参加促進

○事業者との災害時応援協定による連携強化

○地域と宿泊施設との連携支援（災害時の避難所利用の協定締結 事例：菊浜学区とホテル事業者との協定）

- 「新しい生活様式」を踏まえた形の避難所運営

- (2) 下京に暮らす人、働く人、訪れる人、学ぶ人誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりの推進

○区民ぐるみの安心安全なまちづくり、安心安全ネットワーク継続応援事業（各学区に補助）

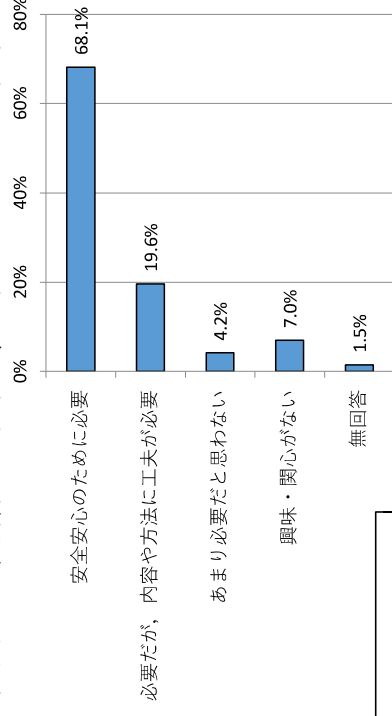
○少年補導、防犯、自主防等、活動目的が共通する団体間の連携・協働

○ビッグデータを活用した交通安全・防犯対策

★空き家・空き店舗の有効活用（子ども食堂、事務所、芸術拠点など）による空き家対策の推進

○区役所での空き家相談会、管理不全空き家対策

防災・避難訓練の必要性（H30区民アンケート結果より）



区民の取組

- 地域の防災活動や防災訓練への積極的参加と、防災・減災意識と災害対応力の向上
- 地域の要配慮者（高齢者、障害のある人、子ども、外国人）への災害時の対応に向けた連携
- 地域における災害時の避難所利用に係る宿泊施設との協定締結
- 防犯パトロール活動をはじめ、玄関先への防犯標語の掲示やセンサーライトの設置など「見せる防犯」の拡大
- 高齢者の特殊詐欺被害、防犯に関する情報共有や日常的な声掛け
- 子どもの安心安全を守るための通学路における見守り活動



戦略6 京都の元気をけん引するまちづくり（1）

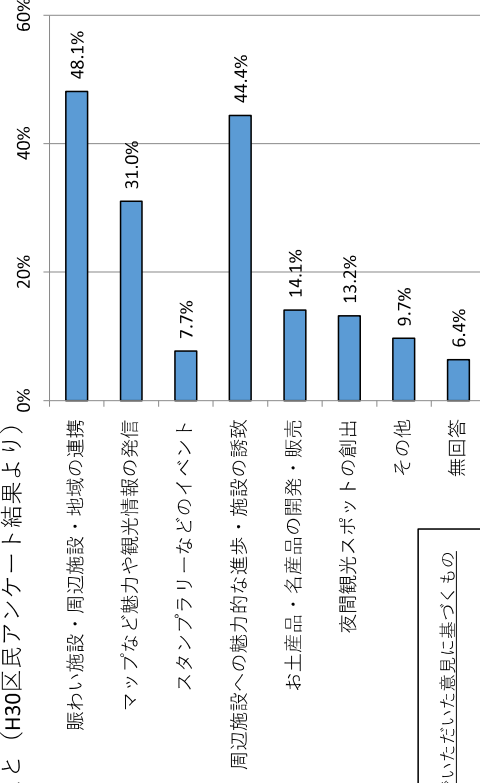
【現状と課題】

○梅小路公園周辺の賑わい施設の集積や京都芸大の移転等による京都駅西部・東部エリアの活性化、新産業の創出拠点や門前町の町並みなど下京区が持つポテンシャルを活かし、京都全体の活性化をけん引していくことが求められる。

【方向性】

区内に集積する商業・伝統産業・文化等の地域資源の最大限の活用と、京都駅西部・東部・東南部のエリアマネジメントの連携促進により、経済・産業・文化が融合した新たな価値の創造など、京都の活力を牽引する創造的なまちづくりを進めます。

（梅小路エリアについて）JR新駅等の賑わいを地域や周辺施設へ拡大するために必要なこと（H30区民アンケート結果より）



【取組例】 ★：リーディングプロジェクト ●：ウイズコロナ社会への対応 上線部は、区民まちづくり会議部会等で行った意見に基づくもの

（1）世界にはばたく起業家を支援するスタートアップの聖地・下京の推進

○創業・イノベーション拠点（淳風bizQ）や芸大移転を機に整備されるスタートアップ創出拠点と地域との連携・交流推進

○京都市ソリューションセンター・イノベーション研究所（SILK）との連携による社会課題・地域課題の解決、イノベーションが生まれるエコシステムの構築

★下京区の東西エリアが交流・融合する「クリエイティブエリア」の創出

（2）京都芸大移転を活かした芸術活動と地域・生活文化の融合

★伝統産業職人と芸術系大学生の連携・コラボレーション

○学生が地域に出て学ぶ仕組みづくり、学生によるアーティストの活動の場の提供（店舗、空き店舗、お寺、KRP中庭等）

○「まちなかギャラリー」などアーティストの活動の場の提供（店舗、空き店舗、お寺、KRP中庭等）

（3）地域と調和した京都駅、梅小路周辺の更なる賑わい創出と回遊性向上

○下京・京都駅前サマーフエスタ、梅小路みんながながるプロジェクトなど民間等と連携した取組の推進

○中央卸売市場再整備に伴う「賑わいゾーン」活用事業等による梅小路京都駅周辺エリアの回遊性向上

○東本願寺前市民緑地整備を契機とした朝市等の開催による朝観光の創出

<次ページに続く>



区民の取組

○地域の歴史・魅力の掘り起こしと発信、魅力的なエリアと活動する人々同士のネットワーク化

- ウイズコロナ、アフターコロナ時代の観光客への新たなおもてなしの創出
- 地域の事業者や起業家との交流・連携による新たな価値創出への寄与
- 京都芸大や芸術家、起業家などを地域に迎え入れ、支える機運醸成と環境づくり（活動の場、雇用、定住）への協力



戦略6 京都の元気をけん引するまちづくり（2）

【取組例】

★：リーディングプロジェクト ●：ウイズコロナ社会への対応 上線部は、区民まちづくり会議部会等で行った意見に基づくもの

（3）地域と調和した京都駅、梅小路周辺の更なる賑わい創出と回遊性向上

○●地域の多彩な歴史的・文化資源の掘り起こしと魅力発信、マイクロツーリズム（地元、近隣への観光）の推進

○西部エリア、東部エリア、東南部エリアなど京都駅周辺の各エリアのネットワーク強化、広域的な人の流れの創出

○●下京区観光パッケージの開発（活動団体や旅行者と連携して、ゲストハウス、飲食店、芸術スポット、「知る人が知る下京区の魅力」スポットなどをパックにして提供）とオンラインツアーの開催支援

○門前町の活性化（法要等を契機とした門前町商店の連携）

○観光客や区民が楽しめる地域資源を活用した文化体験

○和ろうそくを活用した「しもぎょう伝燈祭」、和傘を活用したイルミネーションなど伝統産業製品を活用した夜観光の創出

○高瀬川再生プロジェクトと連携した、高瀬川の歴史的・文化的つながりを活かした地域活性化支援

（4）地域コミュニティの核となる持続可能な商店街づくり

○芸術系大学、高校とのコラボによる定期演奏会の開催、作品発表の場としての店舗活用等による商店街の魅力向上

○学生との連携による商店街の地域資源を活かした名産品の創出・販売促進、観光誘客の推進



区民の取組

- 区内商店や事業所サービスの積極的利用
- 地域の魅力を改めて見つめ直し、3密を避けながら地元ご近所や近隣で楽しむ旅行
- 持続可能な商店街に向けた取組（空き店舗の活用、後継者の育成、地域資源を活かした商品開発等）

第1章 南区基本計画策定に当たって

○南区基本計画とは

「南区基本計画」は、今後の南区のまちづくりに向け、区民の皆様方や各種団体、企業と区役所をはじめとした関係機関が、みんなで力を合わせて取り組む指針です。

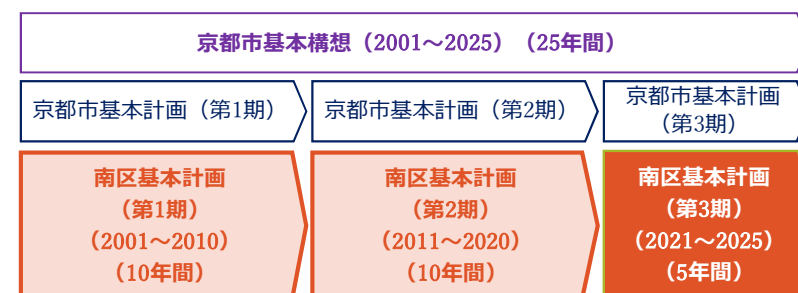
【目標年次】本計画の目標年次は、策定から5年後の2025年（令和7年）です。

○基本計画の策定に当たって

- ・これまでの基本計画（第1期及び第2期）を踏まえつつ、様々な分野に知見をお持ちの方で構成された「基本計画策定委員会」の御意見や区民の皆様方へのアンケート、計画素案に対する意見募集の結果等を反映させた計画として策定しました。
- ・基本計画の策定に当たっては、少子化や長寿化に伴う南区に居住される方の世帯構造の変化、コミュニティの変化、地域社会の国際化の進展、集中豪雨や巨大台風の新たな自然災害の脅威の増加等、社会状況の変化をも踏まえたものとなりました。
- ・また、レジリエンス（様々な環境・状況に対しても適応し、生き延びる力）の重要性の高まり、誰一人取り残さない「持続可能な開発目標（SDGs）」の国連サミットでの採択なども視野に入れた計画としています。

○基本計画の位置付け

【計画期間】令和3年度（2021年度）～令和7年（2025年）

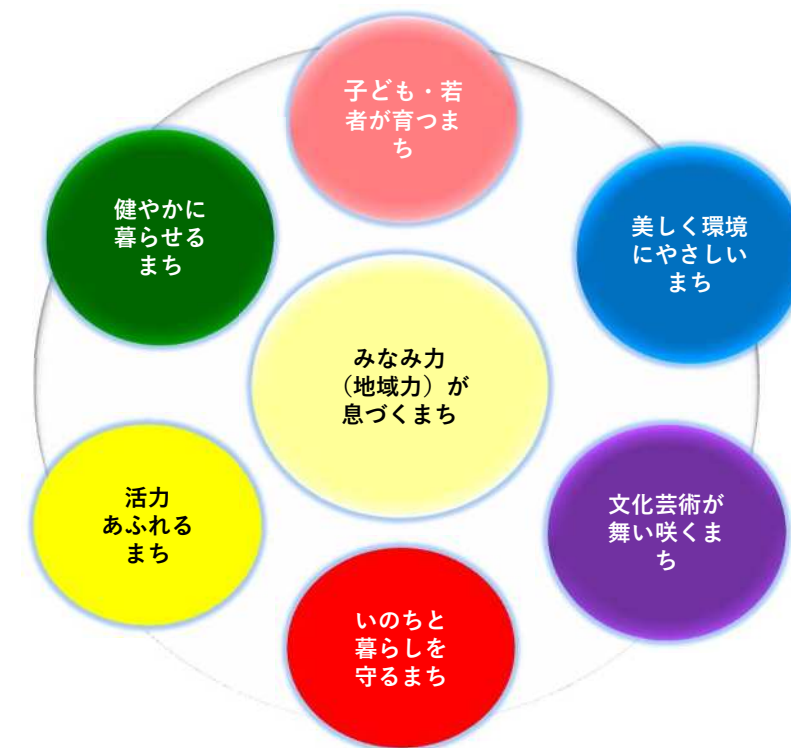


※ 京都市の全体の計画である「京都市基本計画（第3期）」と相互に補完しながら、計画を推進します。

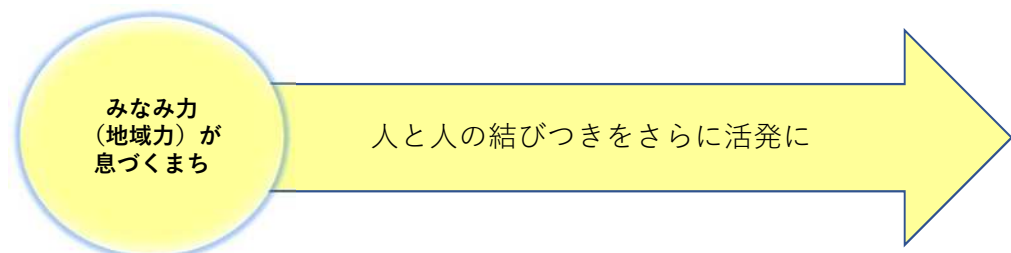
第3章 めざす未来像と取組

○めざす区の未来像

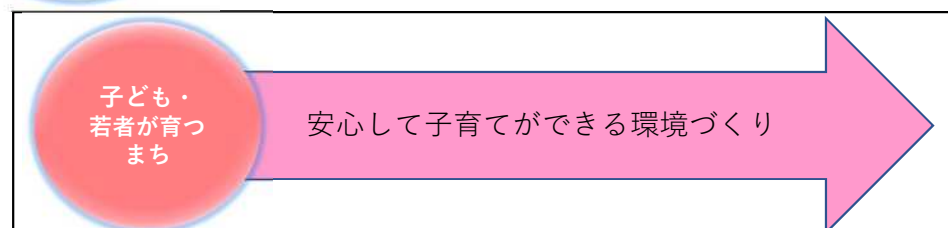
まちづくりの原動力となる、地域での人と人との結びつきや活発な地域活動といった南区ならではの“みなみ力（地域力）”を南区の基本計画の基盤として位置づけ、「みなみ力（地域力）が息づくまち」をすべての未来像の中心として、7つの未来像を描きます。



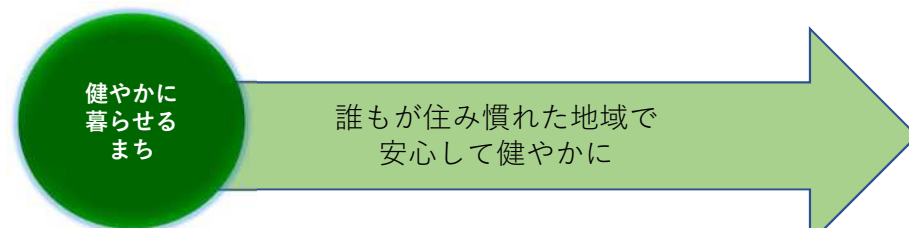
みなみ力ではぐくむ
みんなが住みやすいまち 南区
（キャッチフレーズ案）



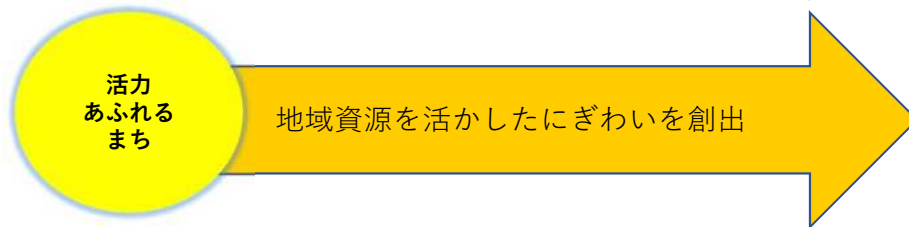
- 取組方針
- 1 みなみ力(地域力)を支える人づくり
 - 2 みなみ力(地域力)を活性化させる仕組みづくり



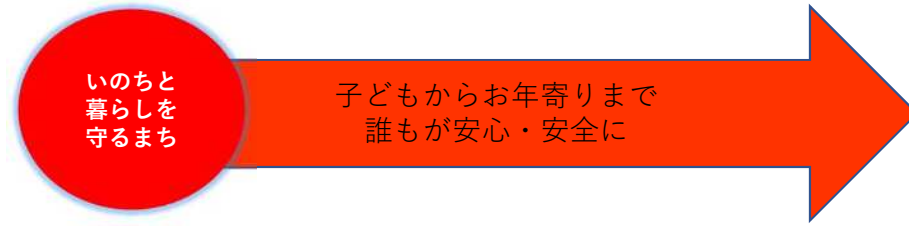
- 取組方針
- 1 子ども・若者と育ち合う地域づくり
 - 2 安心して子育てができる環境づくり



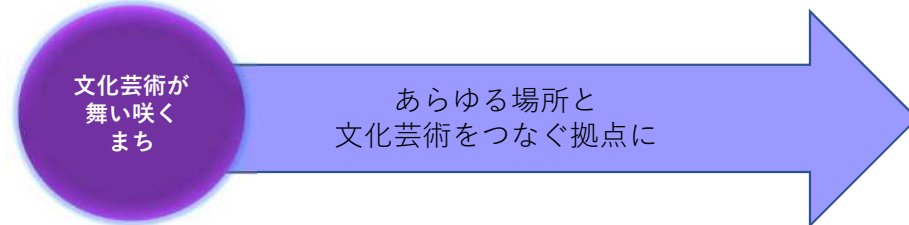
- 取組方針
- 1 人生100年時代を見据えた健康づくりの推進
 - 2 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり
 - 3 「誰一人取り残さない」環境づくり
 - 4 すべての人の人権が尊重されるまちづくり



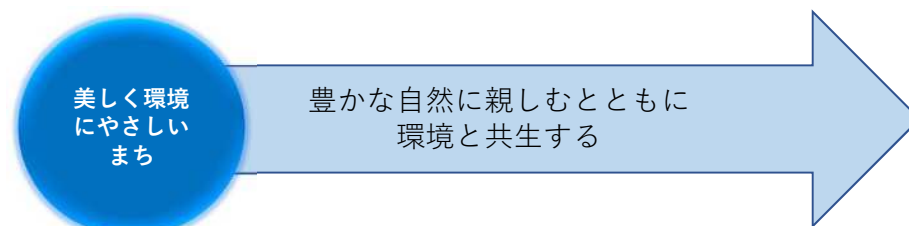
- 取組方針
- 1 まちの活力を支える地域企業・中小企業の活性化
 - 2 暮らしを支える地域商業の活性化
 - 3 地元産京野菜を活かした農業の活性化
 - 4 市民生活と調和のとれた観光振興
 - 5 公共交通ネットワークの充実



- 取組方針
- 1 災害に強いまちづくりの推進
 - 2 安心・安全で快適な環境づくり



- 取組方針
- 1 多文化共生のまちづくり
 - 2 文化芸術が生まれ、広がるまちづくり
 - 3 文化遺産を大切にすまちづくり



- 取組方針
- 1 区民も来訪者もみんなで取り組む美しいまち
 - 2 地球環境にやさしい取組の推進
 - 3 緑化の推進・公園の活用
 - 4 地域の特徴を生かした調和のとれたまち

次期右京区基本計画 骨子（案）全体像

編集方針

① 読み手一人ひとりにとって、主語が「わたし」となるように。

② みんなで目指す未来に向けたスタートラインとして提示する。

読み手にとって「自分ごと」になるように構成・表現を工夫する。

→ 「完成図」としての計画ではなく、スタートラインを示すものに。

→ 計画に書かれたことがどれだけ出来たかよりも、どれだけの人意識や行動を変え、ここに書いていないことを実現できたかを大切にしていく。

③ 目指す共通のビジョンはみんなが共感し、抛り所にできる、主語が「わたしたち」になるものに。

④ 読み手が自ら考え、行動するための道しるべとなる考え方やプロセスを示す。

ミライ会議のプロセスをしっかりと見せることも大切。

策定プロセス

9/19 計画編集会議
「まちづくり」の4つの分類をもとに、この章で伝えたいポイントを議論

9/19 計画編集会議
12/8 ミライ会議
10年を振り返り、印象的な出来事や生活実感を年表に入れる作業を実施

12/8 ミライ会議
右京の良いところ、直したいところについて意見交換
区民インタビュー

12/8 ミライ会議
1/18~19 ミライ会議
実現したいまちの姿や「わたし」の理想の暮らしをイメージ
2/27 計画編集会議
4/26 ミライ会議
「わたし」から「わたしたち」に広げる準備（視野を広げる）
区民インタビュー

5月 ミライ会議
未来を実現するための方策を考える
6月以降 ミライ会議
ビジョンの実現に向けたマイプロジェクトを立て、実践につなげる

「自分ごと」の視点を持つ

序章 わたしたちの「暮らし」と「まち」との関わり

私たち一人ひとりにとって身近な「暮らし」と、他人事になりがちな「まち」との関係をときほぐし、「自分ごと」として未来を思い描き、行動することの大切さを伝える。

日常生活の中にある 何気ない行動	高じて一歩 踏み出す 個人のアクション	仲間とともに 行う アクション	大きな広がりの中で 行うアクション
<ul style="list-style-type: none"> ・日暮にある「お話し相手」や「立ち寄り」 ・通勤に英語で話しかけられる ・近所の行きつけのお店で買い物する ・買出しもバスに乗る 	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味に没頭して、未来に向けて「良いこと」を積み重ねて暮らすための準備をする。 ・エコバッグを持ち歩く ・遊んでいる子供を家に呼び寄せて遊ばせる。 ・ゴミを減らすママ、パパと家族で取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやり共有する仲間とともに、やりだいで活動している。 ・コミュニティのワークショップを企画する ・駅近駅西のグループを育成し、地元で活動する ・同じ悩みを抱える子育て世代が集う懇話会を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の組織ができて、いろいろな人とのつながり、信頼していく。
「思いやり」への意識を行動に表すという意があることが、仲間、縁が広がること		「まちづくり」という言葉に込められた意があることが、仲間、縁が広がること	

第1章 知ってほしい、右京区基本計画のこと

- (1) 誰の、何のためのもの？
- (2) 特徴
- (3) 読み方
- (4) 検討体制

未来を描く下地をつくる（暮らしやまちの現状を知る）

第2章 はじめよう、まちを「知る」こと

- (0) 右京区の概要
右京区の面積・人口などの客観的な現況や、右京で暮らす人が抱くまちに対する印象 など
- (1) 身近な暮らしを振り返る
この10年で起きた出来事や、区民の生活実感を年表等で表し、まちの変化・暮らしの変化を知る
- (2) 暮らしの変化をデータで見る
この10年の暮らしの変化を客観的な統計データで知る
- (3) 生活・暮らし目線でのまちの現状
(1)(2)を生活・暮らし目線の分野（カテゴリー）の柱立てごとに整理

みんなで目指すまちの未来の姿を描く

第3章 描いてみよう、わたしたちのまちの未来

- (1) 未来を描く視点
- (2) 未来のビジョン（9つの分野）
- (3) 未来を実現するための私たちの暮らし方

未来の実現のためのアクションを実践する

第4章 やってみよう、未来の実現に向けたアクション

- (1) 未来を実現するための方策
- (2) アクションを起こす
- (3) サポートの仕組み

第3章 西京区の将来の姿

西京区の将来の姿及び基本理念

次回会議で皆様からの御意見を基に決定

～ 本計画のキャッチフレーズ ～

(参考)

- 西山の緑かがやき 未来をひらく西京区〈現行計画〉
- 未来に向かって輝け住みよい西京区！〈40周年キャッチコピー〉
- 緑とゆとりを守り、各世代が支えあい心豊かに共生できるまち〈洛西ニュータウンアクションプラン「ラムキャッチフレーズ」〉
- “味わいたい・訪ねたい・住みたいまち”大原野〈大原野「地域ブランド」戦略〉

西京区の将来の姿を表すと同時に、本計画を推進していくに当たっての基本理念となるキャッチフレーズです。

キャッチフレーズの説明文

西京区では、これまでから区民と行政の協働により、区の個性を活かした魅力あふれるまちづくりに取り組んできました。本計画に基づき、区民と行政の連携をより強めながら、区の更なる発展と魅力あるまちづくりを推進していきます。

第4章 まちづくりの方向性・取組分野

基本的視点

西京区の将来の姿を受けてまちづくりを進めていく中で、念頭においておくことが必要な「基本的視点」を整理します。

あらゆる政策分野に共通する横断的視点を持ち、具体的な施策を推進します。

○文化力

- ・京都は千年を超える歴史の中で、奥深い伝統文化を継承してきたまちであり、国内外との交流を通じて多様な文化を受け入れ、伝統に革新を重ね、絶えず新たな文化芸術を生み出してきており、京都の文化をいかすため、昭和53年に「世界文化自由都市宣言」を行っています。
- ・文化とあらゆる政策分野の融合を推進し、新たな価値の創造や相乗効果により、経済や社会の発展を牽引していくことが重要です。

○定住人口の増加、企業活動の活性化

- ・京都市において、少子化による人口減少、高齢化の進行、都市に活力を生み出し、社会を支える中核となる若年・子育て世代の市外流出が問題になっていますが、西京区においてもこれらの傾向が進みつつあります。
- ・基本計画の推進にあたっては、子育て支援の充実、移住・定住の支援等定住人口の増加につながる施策に取り組むとともに、新産業・新事業の創出支援、農業の活性化を通じた持続的経営力の強化等、企業活動の活性化を図り、地域の活力を維持・創出します。

○地域力

学区単位のコミュニティは、地域における様々な自治活動の基礎となっています。地域共生社会の実現を目指すに当たっては、この「地域力」を活かし、様々な団体との協働により、地域における「気づき、つなぎ、支える」力を高めていきます。

○レジリエンス、SDGsの推進

- ・「レジリエンス」は一般的に、様々な危機からの「回復力、復元力、強靱性（しなやかな強さ）」を意味するとともに、ダメージを受けても粘り強くしななって元に戻りながら、以前よりもより良く立ち直る状態を表現しています。
- ・都市に関しては、「悪影響を及ぼす外からの力や、内部で生じる様々な困難な問題に、屈することなく粘り強く対処し、克服し、より良く発展する能力」と解釈できます。
- ・自然災害や人口減少、地域コミュニティを取り巻く課題等、あらゆる危機を乗り越え、将来にわたって人々がいきいきと暮らせる、魅力と活気に満ちたまちを目指し、京都市では、「京都市レジリエンス戦略」を策定しています。
- ・「SDGs（エスディーゼーズ）※」は、「誰一人取り残さない」を合言葉に、人権、格差是正、教育、環境、平和など、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17の普遍的なゴール（目標）と、169のターゲット（達成基準）であり、実現に向けて各国政府だけでなく、地方公共団体や企業等の主体的な取組が求められています。
- ※「Sustainable Development Goals」の略称
- ・あらゆる危機を克服し、「持続可能な社会の実現」を追求するという方向性において、「SDGs」と「レジリエンス」の取組は重なり合います。
- ・レジリエンス、SDGsの推進の視点を持ち、西京区基本計画を進めていきます。

【重点取組】次世代へつなぐプロジェクト

西京区の将来の姿を効果的・効率的に実現させるため、特に重要な取組について、「重点取組次世代へつなぐプロジェクト」として設定しました。

自治会加入率の向上	地域コミュニティの要となる自治会加入率の向上につながるよう、地域が主体となった取組を一層進めるとともに、行政は地域の自治会活動を積極的に支援します。
地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステム*の推進	地域共生社会の実現に向け、地域で暮らす住民誰もがその人の状況に応じた支援を受けられる体制を構築するため、地域包括ケアシステムを推進します。 複合的な課題を持つひきこもりについては、相談窓口を明確にし、本人と家族に寄り添い、関係機関と連携して多分野にわたる包括的な支援を行います。
近隣自治体等との連携の推進	近隣の自治体等と連携し、それぞれの地域の特性を活かし、地域の魅力・活力の向上につながるまちづくりを進めます。
大学・学術研究機関等と地域との連携の推進	学生や地域住民の人材育成をはじめ、大学等に集積する知識やノウハウの地域での活用、地域での大学等の実践の場確保等、大学・学術研究機関等と地域相互の特色を活かし合い、地域の活性化につなげます。
新たな交通ネットワークの検討	文案検討中
芸大跡地活用の検討	下京区へ移転する京都市立芸術大学跡地について、地域資源を活かした仕事の創出の視点、イノベーションを生み出す産学公連携の視点を持ち、西京区の活性化と賑わいを創出する活用について検討します。
職住近接のまちづくりの推進	市民の多様なライフスタイルの実現だけでなく、地域での雇用・経済活動の創出による地域の活性化といった好循環を生み出すため、新たな働く場を創出する等、職住近接のまちづくりを進めます。
新産業の創出	産学公連携の下、最先端の学術研究成果を産業界に橋渡しするなど、世界最高水準の知的産業創出拠点を目指す、桂イノベーションパーク等において、先端的技術や産学ネットワークを活用し、京都の産業を牽引する新たな産業の創出を図ります。

※ 高齢者一人ひとりが、できる限り、住み慣れた地域で自立した生活を継続できるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される仕組み

4つのまちづくりの方向性

第1節 誰一人取り残さない人と人が支え合う区民が主役のまちづくり ～地域の絆を育み、安心して暮らせるまちを目指して～

【取組分野】	【取組分野キーワード】	ページ
① 誰もが尊重されるまちづくりの推進	(人権)	10
② 地域コミュニティの更なる活性化	(地域コミュニティ)	11
③ 自治会加入率の向上 重点	(自治会加入)	12
④ 協働によるまちづくりの推進	(区民参加)	12
⑤ 地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの推進 重点	(地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉)	13
⑥ 子育て・教育環境の充実	(子育て・教育)	16
⑦ 健康づくりの推進	(健康)	19
⑧ 安心・安全なまちづくりの推進	(安心・安全)	21
⑨ 西京区総合庁舎整備	(総合庁舎整備)	23

第2節 環境と共生するまちづくり

～美しい自然を守り育て、未来へ引き継ぐまちを目指して～

【取組分野】	【取組分野キーワード】	ページ
① 自然環境の保全と緑化の推進	(自然環境)	24
② 歩いて楽しいまちづくりの推進	(歩くまち・京都)	25
③ まちの美化活動の推進	(まちの美化)	26
④ 脱炭素・循環型社会の構築	(脱炭素・循環型社会)	26
⑤ 美しい景観の保全・創出	(景観)	27
⑥ 田園環境の保全と農業の振興	(農業)	27

第3節 人と歴史・文化が輝くまちづくり

～地域の魅力を活かし、多彩な交流が進むまちを目指して～

【取組分野】	【取組分野キーワード】	ページ
① 地域の歴史・文化の継承と活用	(歴史・文化)	28
② 地域の魅力を活かした観光の振興	(観光)	28
③ 市民スポーツの振興	(市民スポーツ)	29
④ 近隣自治体等との連携の推進 重点	(都市間交流)	29
⑤ 生涯学習の推進	(生涯学習)	30
⑥ 大学・学術研究機関等と地域との連携の推進 重点	(大学等との連携)	30

第4節 いつまでも住み続けられる都市基盤が整うまちづくり

～快適で、いつまでも住み続けたいと思うまちを目指して～

【取組分野】	【取組分野キーワード】	ページ
① 公共交通体系の充実	(公共交通)	31
② 新たな交通ネットワークの検討 重点	(新交通ネットワーク)	31
③ 暮らしやすい道路環境の整備	(道路環境)	31
④ 河川・上下水道の整備	(河川・上下水道)	32
⑤ 公園の活性化	(公園活性化)	33
⑥ 職住近接のまちづくりの推進 重点	(職住近接)	33
⑦ 商工業の振興	(商工業)	33
⑧ 新産業の創出 重点	(新産業)	34
⑨ 芸大跡地活用の検討 重点	(芸大跡地)	34
⑩ 住み続けられる住環境の整備	(住環境)	35

「次期伏見区基本計画」（計画期間：令和3年度（2021年）～7年（2025年））の骨子案

SDGs（持続可能な開発目標）、レジリエンスの理念を基礎に伏見のまちづくりを推進

●伏見区がめざすまちづくりの将来像

水と緑と温もりの
まち 伏見ですむ

～子どもからお年寄りまで
「住みたい」「住み続けた
い」「訪れたい」と実感で
き、地域力・福祉力に満ち
た伏見のまちを目指して～



●将来像の実現に向けた3つの目標

あらゆる危機にしなやかに
強く対応できる安心安全で、
誰一人取り残さない共生のまち

伏見ならではのまちづくり文化や
伝統を大切にしながら、次の担い
手を育むまち

大阪・関西万博などを好機にし
た持続可能で新たな活力を創造
するまち



●3つの目標に基づく、5つの取組方針

誰もが安心して住み続けられる安心安全のまちづくり

<主なキーワード> ★…は新規

- ・地域ぐるみの防災、防犯、交通安全、安心安全に暮らせる環境整備
- ・交通アクセスの強化、公共交通の不便な地域等への対応策の検討

★「住む、住みたいまち・伏見」の実現に向けた定住・移住促進の推進【新規】

地域ぐるみで子どもを育み、健康で健やかに暮らせるまちづくり

<主なキーワード>

- ★子育て家庭や若者に寄り添い、地域全体で子どもを育む環境づくり【新規】
- ★地域ぐるみでの健康長寿の取組の推進【新規】
- ・誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域の福祉力の向上

伏見力(伏見の地域力)、伏見の魅力(伏見魅力)を継承・発展させるまちづくり

<主なキーワード>

- ・地域コミュニティを支える交流の場づくりと新たな担い手育成
- ・自主的、自律的な市民活動の活性化支援
- ★高校、大学などの教育機関と連携したまちづくりの推進、伏見の文化や伝統を学び、次の世代につなげる生涯学習の推進【新規】

脱炭素・環境共生のまちづくり

<主なキーワード>

- ★脱炭素・環境共生に向けた、みんなごとでの生活スタイルの転換【新規】
- ★環境学習施設（さすてな京都など）、区民、事業者等が連携した環境学習の推進【新規】
- ・公共交通の利用推進、歩いて楽しいまちづくり

伏見の特色を活かした文化・産業・観光振興のまちづくり

<主なキーワード>

- ★港町、名水など、伏見の多様で魅力的な歴史的資源を活かした持続可能な広域観光の推進【新規】
- ★地域企業や生産者等と連携した伏見ならではの経済好循環づくり【新規】
- ★らくなん進都を中心にオフィスや研究施設など、ものづくり拠点の誘致推進、意欲のある起業家のスタートアップ支援【新規】

地域別のまちづくりの取組方針もそれぞれ設定

- (1) 旧伏見市・竹田・桃山地域
- (2) 下鳥羽・横大路・納所・淀地域
- (3) 久我・羽束師地域、(4) 向島地域
- (5) 深草地域、(6) 醍醐地域

将来像の実現に向けた3つの目標について、
分野融合で重点的に進めていくため、現行の伏見区基本計画と
同様、3つの「融合プロジェクト(重点戦略)」を新たに設定予定。

- 住む、住みたい安心安全のまち・伏見プロジェクト(仮称)
- 伏見の文化や伝統の担い手プロジェクト(仮称)
- 伏見から実践！活力創造プロジェクト(仮称)

1 「次期伏見区基本計画」の骨子（案）

(1) 現行の「伏見区基本計画」のめざすまちづくりの将来像 (2) 計画策定後の社会情勢の変化、区民会議等における主なご意見

● 伏見区の将来像

水と緑と温もりのまち「伏見ですむ」

私たちはこんな伏見に住みたい、住み続けたいと思います

山の緑、青い空、ゆるやかな川の流れが **澄み** わたり、この豊かな自然の温もりに包まれて、多彩な歴史と文化を育み、多様な生活圏を持つまちに、人々が元気に働き、交流し、多様な動植物と共に **住む**。暮らしと働く場が共にあり、暮らしにかかわるあらゆるものが地域内で循環し、いろんなことが区内で **済む**。これからもずっと、やさしく生き物を包み込み、多様な人々の活動を見守るそんな伏見のまちであってほしい。

● 「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標

伏見区の将来像の実現に向けて、「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標を設定しました。



伏見区全域のまちづくりの取組目標

「伏見ですむ」ことの想いを実現するまちづくりを進めます。

- 循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の魅をめざします
- 自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します
- 伏見力を活かし、「新しい京都」のまちづくりを牽引します
- 地域のコミュニティが人を育み、すこやかな暮らしを支えるまちをめざします
- 安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします

	社会情勢の変化	【区民会議における主なご意見】	【各種団体、地域、HPなどにおける主なご意見】
少子化による人口減少・人生百年時代の到来	環境 ◆地球温暖化の加速 ◆食品ロス、プラスチックによる海洋汚染	環境（脱炭素・循環型社会） ・持続可能性は環境だけでなく、まちや人づくりでも重要な要素。 ・専門施設や行政だけでなく、市民、民間事業者との連携に加え、経済が循環する仕組みが必要。	環境（脱炭素・循環型社会） ・まちの魅力づくりも大事だが、環境や共生も考慮した計画になれば、SDGsにつながる。 ・10年前に比べ温暖化などは身近な問題になった。昆虫が住めない場所は人も生活できないので、環境への取組がより一層大事。 ・他県から通いやすい伏見地域なので、駅から利用できるレンタサイクルがあったらよい。
	魅力 ◆違法民泊、オーバーツーリズムの問題 ◆中小企業を取り巻く環境の変化	魅力（歴史・文化、産業、観光振興） ・淀川等の水辺や舟運については、賑わいづくりと防災の両面の視点が必要。 ・伏見をよくしたいと有志がそれぞれで動いているのが伏見の特性。歴史や文化など伏見ならではの宝を守りつつ、独自の魅力を発信してほしい。 ・中小企業が地域の中で受け入れられるための取組を積極的に進めたい。	魅力（歴史・文化、産業、観光振興） ・観光も重要な要素なので、京都府の伏見港の整備などと、タイアップしていきたい。 ・主要産業の酒の顧客層が高齢化し、今までのように酒の需要は望めないで、販売商品の紹介を地元にしてほしい。 ・外国人観光客の来訪が多いがプラスに捉えている区民は多くないと思う。観光客との関わりをプラスに捉えられるようになればよい。
	共生 ◆地域コミュニティの希薄化 ◆世界的なウイルス感染症の脅威 ◆災害の多発化、被害の甚大化 ◆潜在化する社会的孤立問題、高まる介護ニーズ、8050問題 ◆「障害者」、「ヘイトスピーチ」、「性の多様性」等の人権問題	共生（多文化共生、地域コミュニティ、市民活動の促進、子育て、健康、安心安全） ・まちづくりの担い手となる子どもを育てる視点が必要。 ・住民自治、住民主体のまちづくりを育む仕掛けが大事。 ・自治会員の減少がネックになっている。 ・高齢者が元気なので、若い担い手が役職を担って育つ機会がない。 ・地域で汗をかく大人の背中を見ていない子が多い。若者が地域で汗をかき、貢献する小さな成功体験をどこで得られるかが大切。 ・引きこもっている方などへの訪問や誘い出しを中心とした地域活動が大事。 ・引きこもり（不登校）の増加を実感しており、学区の垣根を越えた居場所づくりが必要。 ・地域での孤立化などが年々深刻化していると痛感しており、地域福祉の重要性が増している。	共生（多文化共生、地域コミュニティ、市民活動の促進、子育て、健康、安心安全） ・災害対策は重要だが、コミュニティの希薄化により、災害対策にも影響が出ている。 ・10年前とは状況が違っているまずは安全。 ・地域コミュニティの希薄化が課題の根本。住民どおしの会話、横のつながりが重要。 ・若者が主体的に取り組めるボランティアやイベントが少ないように感じる。 ・地域に溶け込みたい学生が多い。活躍できる場の情報を入手できる環境があればよい。
	分野横断的な視点 地域文化力 SDGs レジリエント・シティ	・今後減災対策がますます重要、地域の担い手となる子どもを我々が育てていかななくてはならない。 ・普段からの災害への備えが大切で、災害時には地域の人との協力が大切。 ・醍醐コミュニティバスの安定的な経営のために、引き続き市の協力を求めたい。	・地域での孤立化などが年々深刻化。90歳の親が60歳の息子の面倒を見るケースもある。 ・高齢者から子どもたちが一緒に過ごせる場所がほしい。 ・住みやすいまちであるが、子育てがしやすいまちかどうかという視点も必要。 ・小学校でも口腔ケアが浸透し、大部分の児童は良好だが、極端に悪い子もいる2極化の状態。

(3) 伏見区基本計画の地域別の取組目標などへのご意見

旧伏見市・竹田・桃山地域

“みんなが見たい、聞きたい、話したい” 歴史がいきづく元気なまち

豊かな緑に抱かれた豊太閤の城下町。京の都を北に望み、清冽で豊かな湧水と水運を背景に、政治・経済の中心として繁栄を極めた地。酒蔵と古い街並みをとどめる地域を一層活性化させるために、商店街等をはじめとする「伏見の町衆」の力を結集していきます。

住民力の結集と誰もが参加できる機会づくりによる活気あるまちづくり

- ・ 住民同士が交流できる場所づくり、体制づくり（学校と地域の連携強化） ほか

暮らしの中にいきづく身近な自然や歴史・文化など、地域の魅力資源を活かしたまちづくり

- ・ 歴史資源・地域の魅力資源の観光ネットワークづくり（地域の魅力資源・観光スポットなどのマップ、魅力資源や施設等の案内、観光コースづくり等） ほか

多様な世代や観光客に地域情報等をアピールし交流するまちづくり

- ・ 地域住民や事業者など、異世代・異業種間の交流ができる場づくり（住民、事業者、大学生等も交えた情報交換・交流の場、地域プラットフォームづくり） ほか

【主なご意見】

住民力の結集と誰もが参加できる機会づくりによる活気あるまちづくり

- ・ 外で子どもがお遊ばなくなっているのが諸問題の原因。（地域と）子どもとのつながりが無い。
- ・ 学校では勉強を教え、家庭では躾を教えることが大事。

- ・ 毎朝、児童への声かけを実践しているが、あいさつを返せない子どももいる。

- ・ 少々のことでもへこたれない子どもにしていくことが大事。今の子どもは打たれ弱く、何もできない大人になる。

- ・ 地域と子どもがコミュニケーションを取る一環として、子ども110番の家に児童が行って、あいさつをする取組があるが、事前に練習しても半分の児童が本番であいさつできない。

暮らしの中にいきづく身近な自然や歴史・文化など、地域の魅力資源を活かしたまちづくり

- ・ 観光も重要な要素なので、京都府の伏見港整備などとタイアップしていきたい。

下烏羽・横大路・納所・淀地域

私たちがつくる 美しい水と歴史が輝く みんなが集うまち

古から京都と大阪を結ぶ交通の要衝であったこの地域は、今も広域交通網の要衝であり、また、循環型社会構築の要を担う地域、南部創造のまちづくりの牽引役として、重要な役割を果たし続けています。横大路地域を中心とする伏見ルネッサンスプランの取組や淀城跡を中心とするまちづくりの取組など、急速に高まりつつある地域住民と事業者、行政の協働の機運を更に推し進め、確かな未来を築いていきます。

地域と人のつながり（ふれあい・見守り）を大切にしたい安心・安全なまちづくり

- ・ 地域の安心・安全マップづくり（地域住民の危機管理意識の向上、防災・水防等マップづくり） ほか

地域の歴史資源や地域産材の豊かさをアピールし、次世代につなげるまちづくり

- ・ 地域のまちづくり機運を盛り上げるイベントの開催と発信（横大路桂川・草津みなとフェスティバル「草津みなと鯉海濱祭り」など） ほか

人に身近な水辺環境の豊かさを活かした憩いの場づくり

- ・ 堤防や河川敷、人に身近な水辺の美化、清掃活動 ほか

【主なご意見】

地域と人のつながり（ふれあい・見守り）を大切にしたい安心・安全なまちづくり

- ・ もうちょっと環境（大気汚染など）にシビアに取り組んでいくまちづくりを進めてもらいたい。

- ・ 地域のまちづくりの取組目標に美しい水との記載があるが、相次ぐ自然災害などで、今や、水が脅威になっている。そういった面も次期の区計画では考慮してほしい。地域の方にもあらためて周知をしたい。

- ・ 水害、環境に関する課題はあるが、地域コミュニティの希薄化が根本にあると考えている。住民同士の会話、横のつながりが大事である。

- ・ 普段から災害に備えた準備が必要と痛感した。特に地域との協力が不可欠。

地域の歴史資源や地域産材の豊かさをアピールし、次世代につなげるまちづくり

- ・ 南部区画整理事業もあり、将来的なまちビジョンが見えにくい。計画の進ちょくやスケジュールに翻弄される。何より大事なのは、将来の子どもたちのことを考えることである。

- ・（しゃべり場を通じ）クリーンキャンペーンの大切さや地域の人達と協力して考えることが大切だとわかった。

久我・羽束師地域

多世代が住む 緑豊かな誰もが好きになれるまち

かつて緑豊かな田園地帯だったこの地域も、近年の急激な宅地化によって大きく変貌しつつあります。「久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会」の取組を中心に、地域住民と行政の協働で誰もが何世代にもわたって住み続けたいまちづくりをめざします。

人と人のつながり（交流・見守り）を大切にしたいまちづくり

- ・ 住民同士が交流し憩える場づくり（交流できる場所と機会づくり） ほか

住民の力が発揮され、安心・安全で住み続けられるまちづくり

- ・ まちづくりビジョンの実践（まちづくりビジョンに位置づけられた取組等の実践） ほか

まちに身近な自然や田園、歴史・文化を大切に、次世代につなげるまちづくり

- ・ 地域の自然、農業を活かした体験型学習の取組（地域の農家との連携による農作業体験、身近な自然学習） ほか

【主なご意見】

まちに身近な自然や田園、歴史・文化を大切に、次世代につなげるまちづくり

- ・ 農家も後継ぎがおらず、農地が宅地になっている。今の久我・羽束師地域の取組方針が実情に即さなくなっている。

人と人のつながり（交流・見守り）を大切にしたいまちづくり

- ・ 地域のつながりの希薄化により、自治会活動は縮小傾向。人口は増えているものの、地域活動への参加は著しく低い。とにかく地域のコミュニケーションが取れていない。

- ・ 高齢者の意見よりも、若い人がこういうまちを作りたいと思ってもらわないといけない。もっと若い人が参加できるようなことを考えないといけない。

- ・ 地域と学校とのつながりをもうちょっとしっかりしないと。見守り隊へのPTAの参加がまったく無い。

- ・（昔と違って）自治会への加入、非加入で日常生活に差が生じないし、困らない。市も自治会が大事というなら、そもそもの自治会の在り方の再定義が必要ではないか。

向島地域

“温もりとつながり”で支え合う 安心と福祉のまち

巨椋池の干拓と共に拓かれてきたかつての新興地域も成熟の時を迎えています。地域住民主催のふれあいイベントの取組をはじめ、人々の「温もりとつながり」をキーワードに、新たな時代を築いていきます。

高齢者や障害のある人が元気に安心して暮らせるまちづくり

- ・ 障害のある人や高齢者などに関われる、情報共有ができる場づくり（コミュニケーションの場所・交流できる場所と機会づくり） ほか

豊かな暮らしを支える活発な多世代の交流があるまちづくり

- ・ 多世代や親子（親向上・子供向上）が交流できる場づくり（関連イベント等の連携） ほか

まちに身近な自然や地域の歴史資源を大切に、地域産材等を活かしたまちづくり

- ・ 地域の農産物（地場野菜）の販売等、定期「市」の開催（巨椋池や近隣農地で栽培された地場野菜や加工品等の朝市） ほか

【主なご意見】

高齢者や障害のある人が元気に安心して暮らせるまちづくり

- ・ どのまちにも共通するが、災害対策は重要である。コミュニティの希薄化により、災害対策にも影響がでてくる。
- ・ 町内会長になっても（高齢のため）市民しんぶんが配れず、若返りが急務である。

- ・（市営住宅の）入居率が下がると自治会活動が継続できなくなる。役員の成り手がいないのも根本的な課題。

- ・ 地域の人と話す機会がまったくなかったが、（しゃべり場を通じ）災害時どうすればよいかを考えることができた。

まちに身近な自然や地域の歴史資源を大切に、地域産材等を活かしたまちづくり

- ・ 向島は歴史のあるまちであり、かつては天下の首都で、京都の南の玄関口でもある。農地などの土地も多くあるポテンシャルを秘めたまちであり、市の計画にも大きな視点を入れてもらいたい。

- ・ 地域の専業農家の後継不足も課題である。

- ・（しゃべり場を通じ）向島の歴史、過去の災害など、たくさん学べてよかった。

深草地域

自然と歴史がまちを包み、まちが「ひと」を育む成熟のまち

古代からひらけ、悠久の歴史を有する深草地域。東部には、稲荷山など竹林を中心とする緑豊かな丘陵が広がり、中央部には疏水が南北を貫き、その周辺部には、十六師団が駐留した古くからのまちなどが形成され、そこには大学、高校などの教育機関や医療施設が立地しています。

地域住民や各種団体、教育機関等と一体となって、自然を守り活かす取組を更に推し進めるとともに、にぎわいのあるまちづくりを着実に進めていきます。

「地域」と「ひと」のつながり（交流・見守り）が実感できる安心安全なまちづくり

- ・ 安全安心のまちづくり（高齢者の実態把握、空家問題、通学路・散策路・駅までの道路にかかわる公共交通問題等の取組）
- ・ 地域活動の横のつながりをつくる交流の場づくり（地縁組織や関係団体等による気軽に交流できる場づくり） ほか

本町通界隈のにぎわいが見えるまちづくり

- ・ まちと商店街との共生によるにぎわいづくり（少子高齢化に対応した住みやすいまちづくりなど）
- ・ 疏水沿いの水辺環境づくり（疏水の桜などを活用したにぎわいづくりなど） ほか

まちの身近な自然（里山）や歴史など、環境の豊かさを享受できるまちづくり

- ・ 深草トレイルの充実（稲荷山～大岩山）
- ・ 大岩街道周辺地域の良い環境づくりの推進（まちづくり方針の具体化） ほか

【主なご意見】

「地域」と「ひと」のつながりが実感できる安心安全なまちづくり

- ・ 高齢者が自治会を脱会されることがあるが災害時が心配。また、自治会にいかに参加してもらうか、その方策が必要。
- ・ 「各種団体に入ってこんなことをやりたい。」という声を聞くが、その他のことも担うとなるとやめてしまうので、各種団体に入らなければ活動ができないという縛りはなくした方がよい。
- ・ 仕事を退職されたお年寄りの引きこもりが増えているのではないかと心配。生きがいつくり等と合わせてそういう方が外に出ていただけるような方策が必要。
- ・ 龍谷大学や京都教育大学、工学院高校との連携は重要。地域で活躍したいという学生も多く、地域も大歓迎で、仕組みがあればよい。
- ・ 子ども食堂や、子どもの居場所を地域でつくれたらよい。
- ・ 伏見稲荷に大勢の外国人観光客が来訪している中、避難所への誘導など、外国人に対する避難支援も検討が必要。

にぎわいが見えるまちづくり

- ・ 周辺の深い歴史を有する深草地域の隠れた名所をしっかりとPRできれば、地域の活性化に繋がる。
- ・ 子どもに対する取組が不足している。100円商店街は、子どもで賑わっているのですが、そうした取組を広めていければよい。

まちの身近な自然（里山）や歴史など、環境の豊かさを享受できるまちづくり

- ・ 地球温暖化について、取り上げてほしい。
- ・ 次期計画の中でも、交通や買い物環境の改善を今後の展望に入れた方がよい。
- ・ 大岩周辺の環境問題について、関心を持たれていない感じがするが、関心を持ってもらいたい。大型車の通行量も多くみんな辛抱しているが、地区計画に期待している。

醍醐地域

みんなが参加し、地域で支え合う 希望と期待が満ち溢れるまち

東と西に広がる緑豊かな山並み。まちの中央を流れる山科川。古くから京都・奈良・近江をつなぐ道が拓かれ、世界文化遺産の醍醐寺をはじめ古刹・名刹が点在するこの地域は、今は多くの公営住宅や民間マンションが立地するようになりました。

地域の足となる住民が主体となったコミュニティバスの運行、安心安全なまちづくりのたゆまぬ取組など、地域が持つコミュニティの力をより一層高め、自然や文化を大切にしながら、活気溢れるまちづくりを進めます。

安心安全な暮らしを地域と人が支え合う 地域コミュニティを大切にしたまちづくり

- ・ 高齢者や若者等あらゆる世代が交流し憩える場づくり（気軽に交流し、支え合える場所づくり）
- ・ 地域とPTAとの連携による次世代のまちづくりの担い手づくり（楽しみながら参加できる活動の場づくり、次の世代への後継者育成） ほか

コミュニティバスを活かして地域の活性化につなげるまちづくり

- ・ 地域の魅力的な資源やバスルート等のマップ作成（地域の魅力的な資源の紹介、コミュニティバスの利用促進） ほか

身近な水辺環境を大切にしたまちづくり

- ・ 美しい水辺環境を守るための美化活動等の取組（山科川の水辺環境美化活動） ほか

【主なご意見】

安心安全な暮らし、地域コミュニティ

- ・ 各学区社協が中心となり、高齢者の交流の場を設けてくれており、ありがたい。
- ・ 若い世代との人間関係を作りながら、若年層もやってみたいと思えるようなことから、少しずつ取り組んでもらうことが必要。
- ・ 子どもを中心としたレクリエーションを企画し、地域内で交流を図ってきた。こういう取組を通じて活動に関わったり、参加してくれる人を増やしていくことも必要。
- ・ 公営住宅が多く、一人暮らし高齢者、認知症の方、シングルマザーなど、支援が必要な世帯が多い。
- ・ PTAの中には地域がどういった活動を担っているかを知らない人もおり、しっかりと周知することも必要。
- ・ 地域活動を大切にす文化を、子の世代に伝えていきたい。

コミュニティバスを活かした地域の活性化

- ・ 高齢者が多いため、コミュニティバスは住民の交通手段として非常に重要

身近な水辺環境を大切にしたまちづくり

- ・ 山や川といった自然が豊かで、身近にあるのは素晴らしいこと。もっと有意義に活用し、子どもが自然と触れ合って親しむ環境を残していきたい。

<「次期伏見区基本計画」の策定方針> 令和元年6月3日開催の「伏見区基本計画推進区民会議」の場で了解を得た「次期伏見区基本計画策定方針」に基づき、現行の伏見区基本計画の構成（将来像など）を継承しつつ、人口減少をはじめとする社会経済情勢の変化を踏まえ、計画内容の進化を図る。

<現行の「伏見区基本計画」の構成>	<「次期伏見区基本計画」の構成案>	<備考>
はじめに	1 はじめに	
1 伏見区の姿	(1) 計画の策定にあたって (2) 計画策定の背景 (3) 計画の位置付け（※市基本構想や市基本計画と区計画の関係を図示）	項目を追加し、計画の位置付けを明示
1-1 伏見区全域の現状特性と課題	2 伏見区の現状（人口推移と将来推計人口等をデータで掲載）	
1-2 地域別の現状特性と課題		
1-3 10年度に向けた区民の思い（区民アンケート結果）		
2 めざすまちづくりの将来像	3 めざすまちづくりの将来像	
伏見区の将来像 水と緑の温もりのまち「伏見ですむ」	伏見区の将来像 水と緑の温もりのまち「伏見ですむ」	「将来像」は継承
<p>「伏見ですむ」3つのまちづくりの基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【環境】～環境共生の魅をめざすまち～ ●【魅力】～独自の魅力と活力を醸造するまち～ ●【共生】～人の絆で支え合う安心安全なまち 	<p>「伏見ですむ」3つのまちづくりの目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あらゆる危機にしなやかに強く対応できる安心安全で、誰一人取り残さない共生のまち ●伏見ならではのまちづくり文化や伝統を大切にしながら、次の担い手を育むまち ●持続可能で新たな活力を創造するまち 	※区民会議等での意見を踏まえ「安心安全で共生」を最初に
3 「伏見ですむ」実現に向けたまちづくりの取組方針	4 「伏見ですむ」実現に向けたまちづくりの取組方針	
3-1 伏見区全域の取組方針	1 伏見区全域の取組方針	※上の3つのまちづくりの目標の並び順にそって、変更
(1) 循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の魅をめざします (2) 自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します (3) 伏見力を活かし、『新しい京都』のまちづくりを牽引します (4) 地域のコミュニティが人を育み、すこやかな暮らしを支えるまちをめざします (5) 安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします	(1) 誰もが安心して住み続けられる安心安全のまちづくり (2) 地域ぐるみで子どもを育み、健康で健やかに暮らせるまちづくり (3) 伏見力（伏見の地域力）、伏見の魅力（伏見の魅力）を継承・発展させるまちづくり (4) 脱炭素・環境共生のまちづくり (5) 伏見の特色を活かした文化・産業・観光振興のまちづくり	
3-2 地域別の取組方針	2 地域別のまちづくりの取組方針	
(1) 旧伏見市・竹田・桃山地域 (2) 下烏羽・横大路・納所・淀地域 (3) 久我・羽束師地域 (4) 向島地域 (5) 深草地域 (6) 醍醐地域	(1) 旧伏見市・竹田・桃山地域 (2) 下烏羽・横大路・納所・淀地域 (3) 久我・羽束師地域 (4) 向島地域 (5) 深草地域 (6) 醍醐地域	各地域の意見聴取を踏まえ、掲載内容を調整
4 重点戦略「融合プロジェクト」	5 融合プロジェクト	※「伏見ですむ」3つのまちづくりの目標に関連したプロジェクトを設定
(1) エコライフスタイル「伏見ですむ」 (2) 「伏見魅力」再発見・発信 (3) 絆づくり・「伏見力」増進	(1) 住む、住みたい安心安全のまち・伏見プロジェクト(仮称) (2) 伏見の文化や伝統の担い手育成プロジェクト(仮称) (3) 伏見から実践！活力創造プロジェクト(仮称)	
5 計画の実現に向けて	6 計画の実現に向けて	
伏見区基本計画の策定経過等	次期伏見区基本計画の策定経過等（区民の意見募集結果などを掲載予定）	